

城陽未来まちづくり会議（55人委員会）  
報 告 書



平成27年（2015年）12月  
城陽市 企画管理部 秘書広報課



# 報告書 【本編】

## 目 次

第1章	城陽未来まちづくり会議の実施概要.....	1
1-1	会議開催の目的と位置づけ.....	1
1-2	参加者の決定.....	1
1-3	城陽未来まちづくり会議の進め方.....	2
1-4	会議における意見のまとめ.....	2
第2章	城陽未来まちづくり会議の実施報告.....	3
2-1	SWOT分析による観光戦略の検討.....	3
2-2	意見の分析結果のまとめ.....	9
資料編	.....	15



# 第 1 章 城陽未来まちづくり会議の実施概要

## 1-1 会議開催の目的と位置づけ

城陽未来まちづくり会議は平成 26 年度から始まった取り組みです。これまで行政に声を届ける機会が少なかった市民の方に、市政への参加を促し、その意見を市政に取り入れること、またそのことを通じて市民意識の高揚を図り、市民活動の担い手の掘り起しにつなげることを目的に開催しました。従って、会議での意見については、諮問に対する答申や提言といったものでなく、「幅広い市民の声」として位置づけられるものとなります。

## 1-2 参加者の決定

○参加希望者の選定 住民基本台帳から市民 1,800 人を無作為に抽出し、城陽未来まちづくり会議への参加依頼を送付しました。あわせて会議についてのアンケート調査を実施しました。

○参加募集の人数 55 人  
城陽市（以下「本市」）が京都と奈良のほぼ中間に位置し、古くから「五里五里の里」と呼ばれることにちなんで、55 人となりました。

○参加希望者の決定 参加依頼の結果、62 名から参加希望をいただき、会議に参加していただく 55 人を決定しました。

○抽 選 の 方 法 年齢や地域性を考慮し、Microsoft Excel のランダム関数を用いて抽選を行いました。

○抽 選 の 結 果 抽選の結果、地域別・年齢別の参加予定者は下表のとおりです。

	久津川地区		寺田地区		富野地区		青谷地区		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
10-20 歳代	1	0	5	2	0	0	0	0	8
30 歳代	3	3	0	1	3	2	1	0	13
40 歳代	0	0	1	1	1	2	0	0	5
50 歳代	0	1	1	1	1	2	0	0	6
60 歳代	3	0	4	1	0	0	0	2	10
70 歳代以上	0	0	6	1	2	2	2	0	13
男女別計	7	4	17	7	7	8	3	2	55
総計	11		24		15		5		

(単位：人)

### 1-3 城陽未来まちづくり会議の進め方

会議の進め方として、概要を以下に整理しました。

- テーマ：「城陽市の観光」
- 開催日：①平成27年8月29日（土）10：00～16：00（1日目）  
「城陽市の観光」  
②平成27年9月26日（土）10：00～12：00（2日目）  
「城陽市の観光～市民が考える観光戦略の立案～」
- 開催場所：文化パーク城陽大会議室
- 会議形式：参加者55人を7つのグループに分けた班ごとの意見交換
- 会議内容：班ごとの意見交換、意見の集約・発表



▲奥田市長のあいさつ

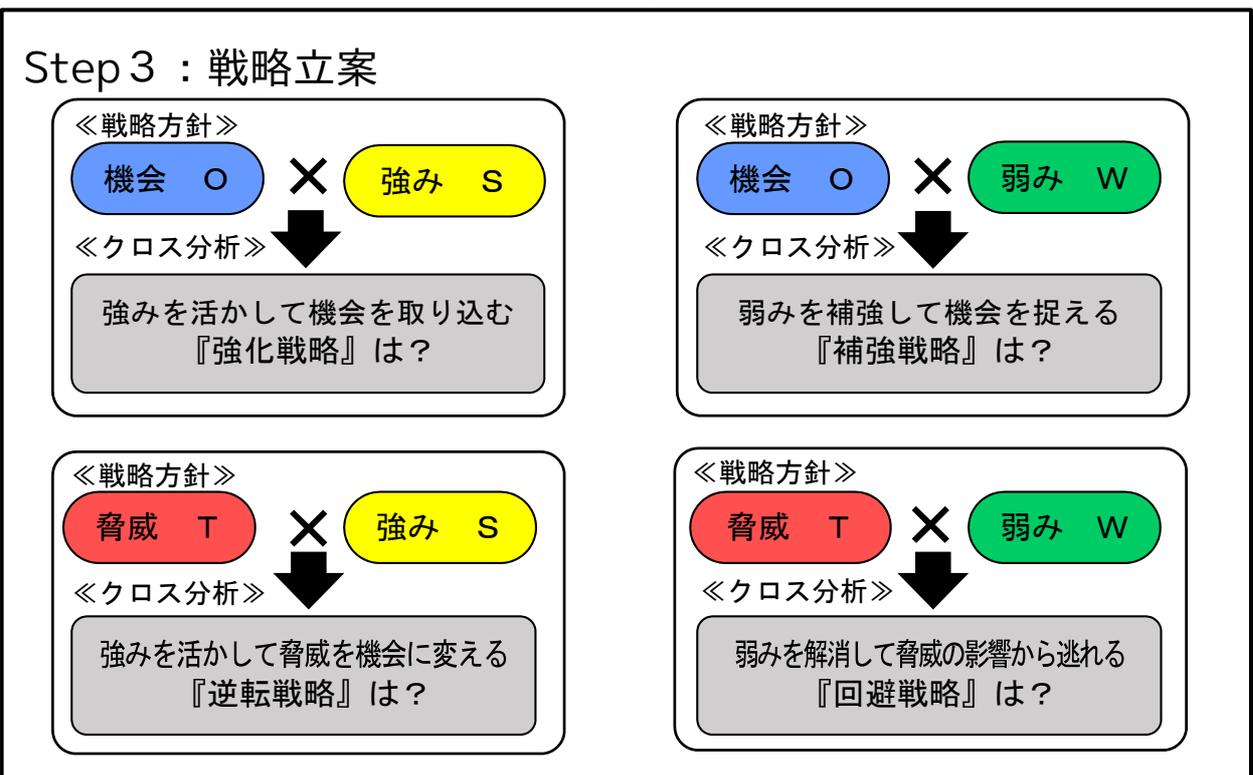
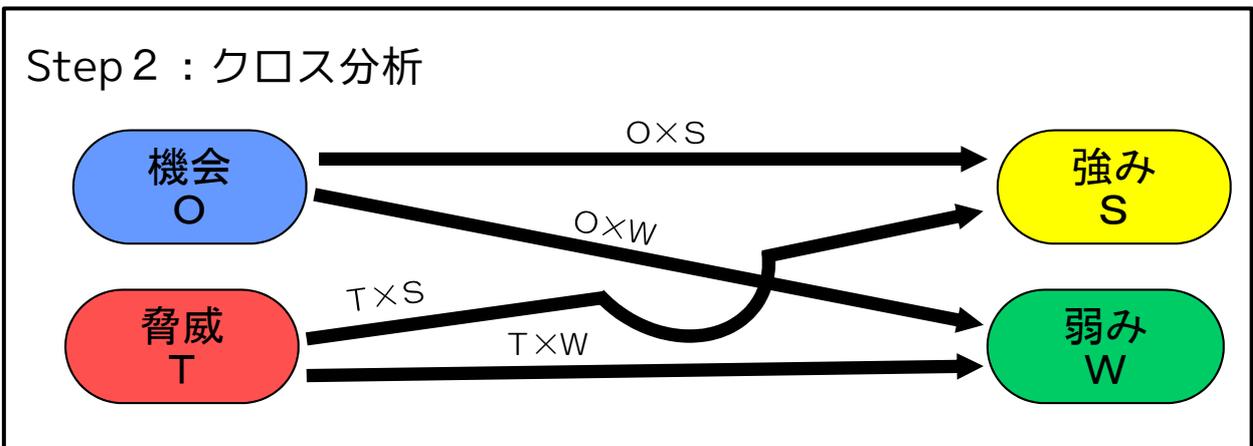
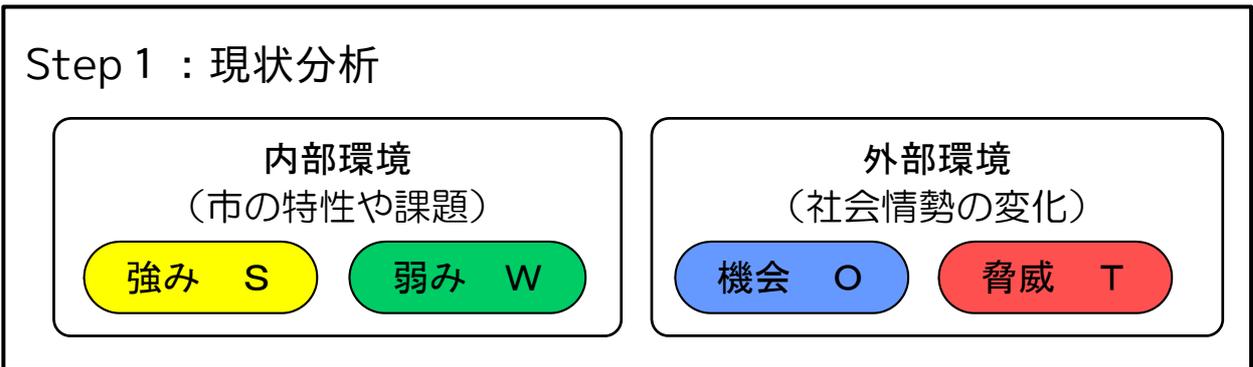
### 1-4 会議における意見のまとめ

会議1日目では「本市の観光におけるプラス要素・マイナス要素」を洗い出し観光促進に向けた提案について検討を行いました。事務局においてその提案をSWOT分析（P.3参照）の考え方による現状分析や観光戦略に再整理し、会議2日目では、観光戦略をより具体化するための戦略立案の検討を行うことで、観光の推進に関する幅広い意見をいただくことができました。

今回の会議でいただいたご意見に基づき、本市として取り組むべきものについては、既に実施している施策との整合性を図り、施策への反映について検討することとします。



<SWOT分析の手順>



### (3) SWOT 現状分析

SWOT 現状分析では、観光のプラス要素となる本市の強みや、マイナス要素となる弱みを中心に、本市を取り巻く内部環境要因（市の特性や課題）について、会議の1日目で意見を出しました。

	プラス要素	マイナス要素
	<b>【強み (S)】</b>	<b>【弱み (W)】</b>
内部環境（市の特性・課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水がおいしい</li> <li>・お米がおいしい</li> <li>・いちじくがおいしい</li> <li>・桃が甘くておいしい</li> <li>・梅は香りも良くおいしい</li> <li>・梅酒もおいしい</li> <li>・山背古道がある</li> <li>・古墳や遺跡がある</li> <li>・活用できる土地がある</li> <li>・流れ橋(上津屋橋)がある</li> <li>・寺田いもがおいしい</li> <li>・梅林がある</li> <li>・桜がきれい</li> <li>・自然が多い</li> <li>・子どもが遊べる施設がたくさんある</li> <li>・花を生産している（花菖蒲・カラー）</li> <li>・様々なウォークが開催されている</li> <li>・木津川サイクリングロードがある</li> <li>・安く宿泊できる施設がある</li> <li>・サンガタウンがある</li> <li>・京都にも奈良にも行きやすい</li> <li>・市街地整備が進んでいる</li> <li>・東部丘陵地の開発が進められている</li> <li>・碾茶が栽培されている</li> <li>・金銀系のシェアが80%※1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR城陽以南は交通が不便</li> <li>・観光地までの道路が狭い</li> <li>・観光客用の無料駐車場が少ない</li> <li>・京都と奈良の間にある</li> <li>・観光案内のサインが少ない</li> <li>・駅前に案内板が少ない</li> <li>・観光は京都に行ってしまう</li> <li>・観光の目玉がない</li> <li>・地元のお土産が少ない</li> <li>・土産物を買える店が少ない</li> <li>・観光要素がバラバラで連携不足</li> <li>・山背古道沿いにトイレが少ない</li> <li>・道の駅がない</li> <li>・市のホームページは見にくく検索しにくい</li> <li>・金銀系の後継ぎが少ない</li> <li>・農作物生産の後継ぎが少ない</li> <li>・休耕地が増えている</li> <li>・空き家が増えている</li> <li>・民間の宿泊施設がない</li> <li>・PRが不足している</li> <li>・外国人向けPRが不足している</li> <li>・城陽の知名度が低い</li> <li>・市の財源が少ない</li> <li>・学生の遊ぶ場所が少ない</li> <li>・イベントがマンネリ化している</li> <li>・木津川運動公園にトイレが少ない</li> <li>・木津川は自然や安らぎが感じられない</li> <li>・自転車空間が危険</li> <li>・観光協会の取り組みが知られていない</li> </ul>

※1「金銀系のシェア」：平成27年現在、全国でのシェアは60%

外部環境要因（社会情勢の変化）については、本市のビッグプロジェクトをはじめとした内容を、事前配布資料として事務局で整理しました。

	プラス要素	マイナス要素
外部環境 (社会経済情勢の変化)	<b>【機会（O）】</b>	<b>【脅威（T）】</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新名神の開通で関西空港、京都、神戸、大津からのアクセス時間が短縮され便利になる</li> <li>・スマートインターチェンジ<sup>※2</sup>が整備される予定</li> <li>・新名神開通を契機に一般道が新たに建設される</li> <li>・京都や奈良へのアクセスが便利</li> <li>・JR奈良線の複線化が進展</li> <li>・大きなゴルフ場が立地</li> <li>・コンビニの立地が進展</li> <li>・地球環境への関心が高まっている</li> <li>・携帯電話やスマートフォンの利用者が多くなっている</li> <li>・インターネットの普及が進んでいる</li> <li>・フェイスブック等のSNS<sup>※3</sup>を利用している人が多くなっている</li> <li>・メタボ検診等により健康志向が高まっている</li> <li>・自転車利用者が増えている（ツーキニスト<sup>※4</sup>やポタリング<sup>※5</sup>）</li> <li>・まち歩き観光のニーズも多い</li> <li>・外国人観光客が増加している</li> <li>・観光の目的は自然等の名所見学や学習体験のニーズが多い</li> <li>・郵便施設の進出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日帰り旅行の移動手段は車が半数を占め電車は3割</li> <li>・近鉄の急行が止まらない</li> <li>・新名神が開通しても通過だけにならないか</li> <li>・幹線道路が渋滞している</li> <li>・少子高齢化が進んでいる</li> <li>・踏切の遮断でバス運行に遅延が発生する</li> </ul>

※2 「スマートインターチェンジ」：高速道路の本線上、サービスエリア(SA)、パーキングエリア(PA)、バスストップ(BS)に設置されているETC専用のインターチェンジ(IC)

※3 「SNS」：ソーシャル ネットワーキング サービスの頭文字の略で、人と人とのつながりを促進・サポートするために、ひとまとまりになって公開されているインターネット上のサービスのこと

※4 「ツーキニスト」：自転車で通勤する人のこと

※5 「ポタリング」：自転車で気軽に散歩すること

#### (4) クロス分析による戦略の立案

SWOT現状分析で整理した本市の特性や課題、本市を取り巻く社会情勢の変化を基に項目を掛けあわせ、観光戦略を導き出しました。

	強み S	弱み W
<b>機会</b>  <b>O</b>	<b>強みを活かして機会を取り込む 「強化戦略」(O×S)</b>	<b>弱みを補強して機会を捉える 「補強戦略」(O×W)</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車ブームや健康志向の高まりを促進させるべく、木津川サイクリングロードを活用したサイクリングイベントの開催</li> <li>・環境配慮型のモデル地区の設定による、自然エネルギーを活用した街づくりの推進</li> <li>・休耕地や未利用地を活用した巨大花畑の整備</li> <li>・コンビニを利用した特産品の販売</li> <li>・梅の健康増進の効果をPRし、商品開発や販売促進を広く展開</li> <li>・観光客をターゲットに金銀糸をブランド化した新たな商品開発</li> <li>・京都や奈良への近隣性を活かしたパークアンドライド駐車場<sup>※6</sup>の整備</li> <li>・郵便局のふるさと小包で特産品を発送</li> <li>・スマートインターチェンジのサービスエリアを活用した、環境配慮型の水族館の誘致</li> <li>・大人も子どもも楽しく遊べるフィールドアスレチックの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城陽に来る前に知ってもらう、帰った後も楽しめるように、観光情報サイトのリニューアルや情報発信の充実</li> <li>・フェイスブックやブログ等を使ったリアルタイムな情報の発信</li> <li>・コンビニを利用した観光パンフレットの設置</li> <li>・観光案内の看板やサインを道路沿道や駅を中心に整備</li> <li>・イベントの定期的な見直しや機能充実</li> <li>・まち歩き観光に対応した駐車場の整備やレンタサイクルの設置</li> <li>・団体旅行に対応した観光バスが停車できる駐車場整備や駅前広場整備</li> <li>・山背古道を安心して歩けるような、トイレや休憩所の設置</li> <li>・土産物がつい買いたくなるような、きれいで入りやすい「ショップ五里五里の里」のリニューアル</li> <li>・メイドイン城陽を後押しするような商品のデザイン化や、購買意欲を刺激する売り方の工夫</li> <li>・既存のゴルフ場を活用したプロゴルフツアーの誘致</li> </ul>
<b>脅威</b>  <b>T</b>	<b>強みを活かして脅威を機会に変える 「逆転戦略」(T×S)</b>	<b>弱みを解消して脅威の影響から逃れる 「回避戦略」(T×W)</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子どもが遊べる施設をさらに充実・PRし、新名神で訪れるファミリー層の取り込み</li> <li>・新名神で訪れる日帰り客が宿泊客になるように、旬の観光要素を連携</li> <li>・観光客、居住者、従業員を増やし、近鉄急行が停車するように働きかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス不便解消に向けて路線バスやコミュニティバスを活用した観光周遊バス等の運行</li> <li>・アクセス不便解消に向けてパークアンドライド駐車場の整備</li> <li>・様々な分野の組織や団体と連携、協力した組織づくり及び再編や強化</li> <li>・未来の城陽を築く小中学生を対象にふるさと体験学習</li> <li>・空き家を活用した民泊施設の整備と収穫体験</li> <li>・新名神開通や東部丘陵地開発に向けたアウトレットモールの誘致</li> </ul>

※6 「パークアンドライド駐車場」：自宅から自家用車で最寄りの駅またはバス停まで行き、車を駐車させた後、鉄道やバスなどの公共交通機関を利用して目的地まで行くシステムのこと

一方、クロス分析に該当しない提案も様々ありました。下記にその内容を整理します。

<b>クロス分析をしない単独の提案</b>
・城陽の土を利用した焼き物づくり
・城陽市内を巡る安全な自転車周遊コースの整備
・木津川の活用
・サイクリングロードを広く活用
・若者を呼び込んだ後継者づくり
・古墳の見せ方の工夫
・イベント日時の固定化（祝日開催）
・イルミネーション時間帯の延長
・自分が観光してみる
・渡し舟の復活
・出荷できないもの（農作物）の活用
・ふるさと納税でPR
・鉄道沿線の特産物を集めた電車イベント
・鴻ノ巣山にイベントを多数誘致
・イルミネーションの目玉化
・観光ルートの設定、観光バスの導入
・いちじくや桃を梅のように活かす
・駅をパークアンドライド駐車場として活用（安く駐車）
・イメージ戦略が必要（プレミアム）
・さつまいもや柿を加工品（干しいも・つるし柿）として販売
・体験できる場所づくり
・城陽の良質な地下水を「名水」として販売

## 2-2 意見の分析結果のまとめ

会議の中で出された戦略の提案（P.7～P.8）すべてについてキーワードごとに分類し、さらに戦略について分析を行いました。

### ① 城陽の観光を知ってもらうためのPRや情報発信

#### 《SWOT分析による戦略》

- ・城陽に来る前に知ってもらう、帰った後も楽しめるように、観光情報サイトのリニューアルや情報発信の充実
- ・フェイスブックやブログ等を使ったリアルタイムな情報の発信
- ・コンビニを利用した観光パンフレットの設置
- ・様々な分野の組織や団体と連携、協力した組織づくり及び再編や強化
- ・未来の城陽を築く小中学生を対象にふるさと体験学習
- ・自分が観光してみる
- ・若者を呼び込んだ後継者づくり
- ・ふるさと納税でPR
- ・プレミアム感のあるイメージ戦略が必要

#### 《分析内容》

観光情報の発信は、観光協会のホームページにて観光全般にわたる情報、ブログを使った情報を発信しています。城陽市総合観光案内所「ショップ五里五里の里」では、ガイドマップやパンフレット等、紙媒体による情報提供や窓口での観光案内を行っています。

城陽未来まちづくり会議では、「知名度が低い、ホームページが見にくい・検索しにくい、PR不足」などの意見が出ました。

一方、近年の情報化社会においては、インターネットによる情報発信のスタイルが大きく変化し、スマートフォンの普及とソーシャルメディアの利用者増加に伴い、観光の最中に感想や写真画像が発信され、様々な情報が即時的に更新され拡散しています。

このような状況を踏まえ、城陽の観光を更にアピールするために、ホームページは閲覧者目線で情報の切り口を分かりやすく・見やすく整理する必要があります。またホームページ・ブログ・フェイスブック・ツイッターなどを組み合わせて情報を発信すると同時に、人が集まる場所へのパンフレット設置等、デジタルとアナログ両方の方法で情報を発信する必要があります。さらに情報の相互間連携とともに、観光に関わる人・組織においても連携や協力を行い、市民との協働による観光の推進が重要です。

## ② 城陽の観光を満喫してもらうための回遊性の向上や機能の充実

### 《SWOT分析による戦略》

- ・自転車ブームや健康志向の高まりを促進させるべく、木津川サイクリングロードを活用したサイクリングイベントの開催
- ・休耕地や未利用地を活用した巨大花畑の整備
- ・大人も子どもも楽しく遊べるフィールドアスレチックの整備
- ・小さい子どもが遊べる施設をさらに充実・PRし、新名神で訪れるファミリー層の取り込み
- ・新名神で訪れる日帰り客が宿泊客になるように、旬の観光要素を連携
- ・観光案内の看板やサインを道路沿道や駅を中心に整備
- ・イベントの定期的な見直しや機能充実（古墳の見せ方、イルミネーションの時間延長、体験できる場所づくり、鉄道沿線の特産物を集めた電車イベント、イベント日の固定化、渡し舟の復活、鴻ノ巣山へのイベント誘致、イルミネーションの目玉化、木津川の活用）
- ・まち歩き観光に対応した駐車場の整備やレンタサイクルの設置
- ・山背古道を安心して歩けるような、トイレや休憩所の設置
- ・既存のゴルフ場を活用したプロゴルフツアーの誘致
- ・城陽の土を利用した焼き物づくり

### 《分析内容》

城陽市の観光資源は、「梅林の花見・木津川の桜・光のページェント」など見て楽しむもの、「さつまいも掘り・梅酒づくり・ウォーク」など体験して楽しむものがあります。

城陽未来まちづくり会議では、「子どもが遊べる施設がたくさんある、様々なウォークが開催されている、自然がきれい」といった意見や、「観光の目玉がない、観光要素がバラバラで連携不足、イベントのマンネリ化」などの意見が出ました。

一方、観光自体は持ち運びできず、その場所限定の商品であるため、近年の観光客の移動交通手段・観光形態や行動等のニーズの多様化に対応することが求められています。

このような状況を踏まえて、城陽市の観光を満喫してもらい、リピーターやファンになってもらうためには、行祭事の関係者と連携して、イベントを定期的に見直し、機能を充実させながらマンネリ化を防ぎ、既存の資源を磨いていくことが重要です。また看板やサインを充実させて目的地までの誘導を適切に行うことや、観光途中で休憩できる場所やトイレを設置し、安心して楽しく観光できる環境整備の検討が必要です。

### ③ 城陽の思い出を持ち帰る土産物の商品開発や、魅力的な物産施設の整備促進

#### 《SWOT分析による戦略》

- ・コンビニを利用した特産品の販売
- ・梅の健康増進の効果をPRし、商品開発や販売促進を広く展開
- ・郵便局のふるさと小包で特産品を発送
- ・観光客をターゲットに金銀系をブランド化した新たな商品開発
- ・土産物がつい買いたくなるような、きれいで入りやすい「ショップ五里五里の里」のリニューアル
- ・メイドイン城陽を後押しするような商品のデザイン化や、購買意欲を刺激する売り方の工夫
- ・いちじくや桃を梅のように活用
- ・出荷できないもの（農作物）の活用
- ・さつまいもや柿を加工品（干しいも・つるし柿）として販売
- ・城陽の良質な地下水を「名水」として販売

#### 《分析内容》

観光客が手軽に購入できる城陽市の土産物は、主に城州白の梅を使った商品、寺田いもやいちじくを使った焼き菓子等が「ショップ五里五里の里」で販売されています。

城陽未来まちづくり会議では、「お米・いちじく・桃・さつまいもがおいしい」といった意見や、「地元のお土産が少ない、土産物を買える店が少ない」などの意見が出ました。

一方、近年の観光のスタイルは「見る」観光から「買う・食べる・体験する」の要素が強くなっており、地域の食を楽しみ、旅の思い出を持ち帰る土産物選びは、観光の醍醐味のひとつでもあります。

したがって観光に土産は付き物であり、できるだけ多く消費してもらうためには、パッケージのデザインに優れ、センスが感じられる商品で目を引き付け、手に取ってもらうことが重要です。また見ているだけでも楽しくなる店舗内の雰囲気や、レイアウト・陳列方法も重要となってきます。

これらの状況を踏まえ、観光客も地域住民も、土産物や特産品が1箇所ですべて購入できる施設設置の検討や、既存施設の活用またはリニューアル等の検討が必要です。また、低農薬や減農薬による農作物を使った食への安心が感じられる商品開発も必要です。

#### ④ 城陽の新たなまちづくりと観光拠点の検討

##### 《SWOT分析による戦略》

- 環境配慮型のモデル地区の設定による、自然エネルギーを活用した街づくりの推進
- スマートインターチェンジのサービスエリアを活用した環境配慮型的水族館の誘致
- 新名神開通や東部丘陵地開発に向けたアウトレットモールの誘致
- 空き家を活用した民泊施設の整備と収穫体験
- 大人も子どもも楽しく遊べるフィールドアスレチックの整備（再掲）
- 休耕地や未利用地を活用した巨大花畑の整備（再掲）

##### 《分析内容》

城陽市では、城陽市都市計画マスタープラン（平成21年3月策定、目標年次：平成28年度）における市の将来像を「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」とし、「やすらぎと活力にみちた文化の香り高い個性豊かな住宅都市をめざす」との理念が示されています。

城陽未来まちづくり会議では「自然が多い、市街地整備が進んでいる」といった意見や、「空き家が増えている、休耕地が増えている、観光の目玉がない、学生の遊ぶ場所がない、市の財源がない」などの意見が出ました。

一方、平成17年に発効した京都議定書に伴う環境意識の高まりを受けて、全国的に環境への意識が高まり、城陽市においても環境に配慮したまちづくりが進められています。今後は観光にも環境の視点を取り入れ、個性的で魅力ある観光を考える必要があります。

そのためには、自然が豊かなベッドタウンとしての特徴を活かし、スマートシティおよびエコタウンのまちづくりの推進や、新名神の開通を契機に、東部丘陵地等を活用した環境に配慮した集客施設の誘致、新たなスポットや観光拠点として「道の駅」の整備を検討する必要があります。

## ⑤ 城陽の観光をスムーズにするインフラ整備の検討

### 《SWOT分析による戦略》

- ・京都や奈良への近隣性を活かしたパークアンドライド駐車場の整備
- ・観光客、居住者、従業員を増やし、近鉄急行が停車するように働きかけ
- ・団体旅行に対応した観光バスが停車できる駐車場整備や駅前広場整備
- ・アクセス不便解消に向けて路線バスやコミュニティバスを活用した観光周遊バス等の運行
- ・アクセス不便解消に向けてパークアンドライド駐車場の整備
- ・城陽市を巡る安全な自転車周遊コースの整備
- ・観光ルートの設定や観光バスの導入
- ・安く駐車できるパークアンドライド駐車場として駅を活用

### 《分析内容》

城陽市の交通は公共交通機関として近鉄やJRの鉄道をはじめ、路線バスやコミュニティバスが運行されているものの、観光利用にはやや不便な面がうかがえます。幹線道路である国道24号や府道69号で慢性的な渋滞が発生しており、観光スポット周辺の道路は狭く、車での来訪がやや困難な状況にあります。

城陽未来まちづくり会議では、「京都にも奈良にも行きやすい」といった意見や、「観光地までの道路が狭い、観光用の無料駐車場がない、JR城陽以南は交通が不便」などの意見が出ました。

一方、観光地における駐車場の確保は全国的な課題となっており、既存施設を利用したシャトルバスの運行や、コミュニティバスの効率的な運行により、マイカー観光への対応は進んでいるものの、大型観光バスの駐停車スペースの確保は課題が残る状況となっています。

このような状況を踏まえて快適な観光を促すためには、鉄道とバスの連携を促進させる必要があります。鉄道の急行停車への働きかけや、路線バスやコミュニティバスの路線やダイヤの見直しが必要です。また、バリアフリーの観点から、観光スポット周辺に短時間駐停車できる小規模分散型の駐車場設置の検討や、大型観光バス用の駐車場として、未利用地等の活用や、自転車や徒歩で観光地を巡るための安全な道路空間の確保を検討する必要があります。



城陽未来まちづくり会議  
報告書 【資料編】



# 報告書【資料編】

## 目 次

資料 1	城陽未来まちづくり会議の報告.....	19
(1)	城陽未来まちづくり会議のプログラム.....	19
(2)	班ごとの意見と結果.....	20
資料 2	城陽未来まちづくり会議における配布資料.....	34
(1)	全国的な観光動向や現状.....	34
(2)	城陽市の特性.....	37
(3)	城陽市の観光の状況.....	40
資料 3	会議開催に向けた事前アンケート調査.....	42
(1)	調査の概要.....	42
(2)	調査の結果.....	45
資料 4	会議参加者のアンケート調査.....	54
参考資料	新聞記事.....	59



## 資料 1 城陽未来まちづくり会議の報告

### (1) 城陽未来まちづくり会議のプログラム

城陽未来まちづくり会議の開催プログラムを紹介します。

#### 【1日目】

平成 27 年（2015 年）8 月 29 日（土）10：00～16：00

9：30～10：00	受 付
10：00～10：10	市長挨拶等
10：10～10：30	本日のスケジュール確認と資料説明（20 分間）
10：30～11：10	自己紹介とミニゲーム（40 分間）
11：10～12：00	グループワーク：現況編（50 分間） ・良いところ（プラスの要素）、改善したいところ（マイナスの要素）について意見交換
12：00～13：00	－ 昼 食 －
13：00～14：00	グループワーク：提案編（60 分間） ・観光施策につながる企画提案を考える ～私たちにもできることは～
14：00～14：30	グループワーク：発表に向けた意見のまとめ（30 分間） ・発表に向けた意見のまとめと発表準備
14：30～14：35	－ 休 憩 －（5 分）
14：35～15：45	グループ発表（70 分間）
15：45～16：00	本日の総括・閉会の挨拶・アンケート記入（15 分間）

#### 【2日目】

平成 27 年（2015 年）9 月 26 日（土）10：00～12：00

9：30～10：00	受 付
10：00～10：05	市長挨拶等
10：05～10：25	本日のスケジュール確認と資料説明（20 分間）
10：25～11：15	グループワーク：提案内容の確認と戦略の具体化（50 分間）
11：15～11：45	各班の発表（30 分間）
11：45～12：00	全体総括・閉会の挨拶・アンケート記入（15 分間）

## (2) 班ごとの意見と結果

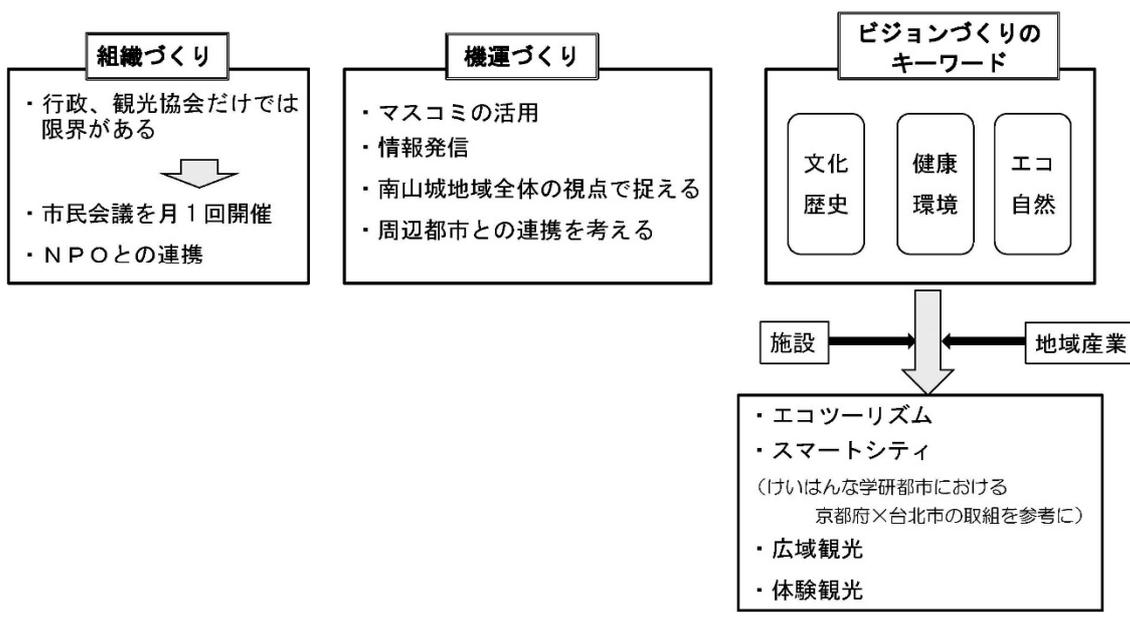
### 1 班の意見と結果

#### 【1 班の会議の様子】



#### 【具体化された観光戦略への提案】

### テーマ：「地域総合型環境文化都市構想」



【1班が考える本市の強みと弱み】

分類	強み（良いところ）	弱み（悪いところ）	その他 （提案に近い内容）
市全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>水がおいしい(井戸水が入っている)</li> <li>街がきれいでゴミが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体のコンセプトがない</li> <li>観光要素がバラバラ</li> <li>観光の目的が大切</li> <li>取り組み組織間の連携不足</li> <li>宿泊施設がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の取組だけでは限界があるので合わせ業が必要</li> </ul>
木津川	<ul style="list-style-type: none"> <li>流れ橋は流れるからいい</li> <li>野生のキジが見られる</li> <li>サイクリングロードは嵐山まで行ける</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>木津川の活用</li> <li>渡し舟の復活→八幡へ</li> </ul>
お土産	<ul style="list-style-type: none"> <li>寺田も→京都市、市内の子どもがいても掘り</li> <li>いもまんじゅう、いもようかん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お土産→宇治の商品ばかり</li> <li>地元のお土産がない→アビールできない</li> <li>お土産が手に入りにくい</li> <li>店が少ない→市外へ行く</li> </ul>	
自然、レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>友愛の丘(キャンプ場)</li> <li>サンガタウン(J2) 市民へのメリットは</li> <li>スポーツ観戦(練習場、スター選手)</li> <li>自然を活かした観光ゾーン</li> <li>鴨谷の滝(知られていない)</li> <li>一休(スーパー銭湯)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鴻ノ巣山→合宿で使用、若い人行かない</li> <li>イルミネーション→市民へのメリットは何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イルミネーション時間帯を延長</li> </ul>
観光、歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>山背古道</li> <li>「歴史」日本のヘソ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントと市民生活への関わり</li> <li>宇治市は年間を通じて観光できるが、城陽市は季節ごとで通年観光はきびしい</li> <li>ゆるキャラは作ったなら活用すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光の経済的波及効果が少ない</li> <li>観光と市民生活のバランスが大切</li> <li>そもそも観光での活性化は必要ない</li> <li>住民が住みやすく、うるおいのある町でいい</li> </ul>

【1班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
<b>まちづくりのコンセプト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりのコンセプト「エコ・環境」</li> <li>まちの魅力を高める</li> <li>エコをテーマにしたまちづくり</li> <li>市民主体</li> <li>エコ先進地</li> <li>京都、奈良とは違う特長</li> <li>エコ先進地の視察</li> <li>それも観光</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が主役になれる場</li> <li>地元をPRするお菓子の開発</li> <li>市民が販売できる施設、イベント</li> <li>ロコミ、PR</li> <li>市民によるWebマガジン、インターネットの活用</li> <li>自分たちが楽しめるイベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近鉄に働きかけて近鉄急行を停める</li> <li>エコ発電→歩いて発電</li> <li>風力発電</li> <li>小水力発電</li> <li>イルミネーション、太陽光、LED</li> <li>太陽光→エコカー充電</li> <li>エコ関連企業の誘致</li> <li>太陽光自家発電</li> <li>まちづくり活動の拠点</li> <li>各種団体の横のつながり強化</li> </ul>	<b>エリア</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化バルク周辺で拠点ゾーン(モデル地区)</li> <li>まちづくりコンセプトの発信拠点</li> <li>アクセス向上</li> <li>環境美化(カラス・共存共栄)</li> <li>バスのエリア利便性向上</li> <li>さんさんバスの活用</li> <li>エコカー補助金</li> <li>廃油エコディーゼル、エコカー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じたお土産の開発</li> <li>長岡 たけのこのお菓子</li> <li>良いものがあるが、少ない→生産性向上</li> <li>グルメマップ</li> <li>影響力のある人によるPR</li> <li>寺田駅のエコ化</li> <li>「つり」アマゴ</li> </ul>

特産品	まちづくり	交通	人を呼ぶ施設	イベント	PR・案内	エコ・環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>特産のいも、いちじくを使ったお菓子開発</li> <li>茶団子やハツ橋のような土産づくり</li> <li>城陽といえばコレというような名物をつくる</li> <li>梅といちじくのコラボ商品の開発</li> <li>いちじくを活かす</li> <li>生産の充実(農・工)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たくさんの方が住みたくなる街</li> <li>安全</li> <li>市の財政健全化</li> <li>人にやさしい設備、コミュニティ</li> <li>コミセンの一層の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路、交通の整備</li> <li>鉄道アクセスの改善、近鉄寺田駅への急行停車</li> <li>電柱の撤去</li> <li>道路の拡幅(久津川駅周辺など)</li> <li>観光客への交通対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木津川運動公園グランドゴルフ場新設</li> <li>人の流れを呼び込むためにイケアを誘致する</li> <li>道の駅の設置</li> <li>特売場をつくる</li> <li>パワースポット</li> <li>飲食店の充実(わざわざここまで来なくなるような名店がある。ex. コヤマロール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンガの試合を西京極ではなく、太陽が丘で</li> <li>イベントの充実と増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇名とか〇〇案内のできる人材を増やし、活動できるイベントを計画する</li> <li>山背古道を活性化させるために井手町、山城町、木津川市との連携</li> <li>城陽の特産物を作っている方と観光で訪れた方が一緒に活動する(農作業とか)</li> <li>テレビのまち歩き番組にとりあげてもらおう</li> <li>観光マップをつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日射量が多いことを活かして太陽光発電を普及</li> <li>環境にやさしいまちと電線のないまちの統合化</li> <li>自然との共生</li> <li>城陽の自然がいかにすばらしいかを体感するために、まずは市民が体験できる場をつくり、広める</li> </ul>

## 2 班の意見と結果

### 【2 班の会議の様子】



### 【具体化された観光戦略への提案】

テーマ：「梅でおもてなしJOYO」	
どこで	道の駅 (建設)      青 谷
誰が	地主 (協力)      京都府      京都市      JA      有志団体 (作る)      ボランティア      酒屋
どうやって (方法)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <b>イベント開催</b>                      ・盆梅                      ・道の駅で参加体験                 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <b>販売</b>                      ・インターネット                      ・スーパーの店頭                 </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <b>PR</b>                      ・パンフの充実                      ・SNS (フェイスブック等)                 </div> </div>
必要なもの (道具など)	・ゆるキャラ：プラムちゃんの知名度UP ・小ビンの梅酒開発 (梅のブランド「城州白」を強化)
欲しい機能	温度調節できる設備 (1年中、花を咲かせる・維持する機械)
資金調達方法	行政の補助金、企業の協賛金、道の駅のネーミングライツ、出品者のマージン      梅の木のオーナー制 (木を買って頂く)

【2班が考える本市の強みと弱み】

分類	強み（良いところ）	弱み（悪いところ）	その他（提案に近い内容）
鉄道	・城陽駅は快速停車駅でもあり始発便が多い	・近鉄：急行が停まらない ・奈良線：複線化が急務 ・城陽駅～寺田駅の間、道幅が狭い ・踏切の遮断時間が長いのでバスが遅延	
高速道路	・新名神開通で八幡や樟葉が近くなる		・高速道路等の道路整備は、通過重視にならないか ・高速が便利になるなら、特産品を販売するSAを ・企業にとってはポイントとなって良い。 ・今あるサイクリングロードをマラソンだけでなく、もっと活用
木津川周辺	・木津川沿いのウォーキング、サイクリング道は歩きやすい	・木津川運動公園のトイレ数が少ない ・木津川は水が流れているだけで自然も安らぎも感じられない	
青谷梅林	・梅林周辺は梅やいちじくの産地	・梅の販路をもっと開拓(梅酒づくり開拓) ・年間を通じた資源ではない(梅の時期しかない) ・梅林への道順がわかりにくい ・山城青谷駅で梅林を案内、PRすべき ・毎年同じ内容で進歩がない ・甘いものをもっとアピールすべき	
307号 および沿線		・青谷バイパスが新しくなったが渋滞は減っていない ・鴨谷の道の知名度低い。沢渡りで岩場がない ・さんさんバスはありがたいが、遠回りで時間がかかる	・バスと大型車の行き違いが少なくなった ・人気ラーメン店が2軒あるので活用
アルプラ周辺	・アルプラザ城陽が便利になった	・JR城陽より南側が不便すぎる	・長池駅にリニア誘致は実現するか
鴻ノ巣山 周辺	・格安の宿泊施設(アイリスイン、プラムイン)がある	・鴻ノ巣山散策道の道順がわかりにくい	・もっと鴻ノ巣山にイベントを誘致したほうがよい。太陽が丘に負けている ・「星野リゾートみたいにホテルが目的」という風に充実できないか
歴史施設等	・山背古道は変化があってもうれしい ・水度神社周辺は木が多く季節感があって良い ・久世神社は拝殿、境内ともに散策に良い	・山背古道トイレが少ない ・正道官衛の知名度低い ・久津川車塚、丸塚古墳は交通の便が悪い ・水度神社周辺の緑が減らされている	
イベント その他	・光のページェントは季節感があって集客力がある ・彩り市は手作りを楽しんでいる市民にとって励みになっている(高齢の方とか) ・文化パルクの大ホールは有名人のコンサートがよく開催される(事前の情報やPRがない)	・城陽市の全国的な知名度が低い ・市のHPは何がポイントなのか見にくく探しにくい ・五里五里→中途半端だということを自覚すべし	

【2班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
<b>青谷梅林</b> ・年間を通じた資源ではない(梅の時期しかない) ・毎年同じ内容で進歩がない ・梅の販路をもっと開拓した方が良い(梅酒づくり開発) ・初めて行く場合道順がわかりにくい(行きにくい) ・梅林見学以外のイベントをプラス(他見学先)	・現地案内	・観光みやげの開発 ・酒蔵訪問 ・梅酒、梅干、梅菓子→これからどうする。 ・外に向けてPRし、人を呼び込む	・施設、トイレなどハードの充実 ・PR、HPを見やすく 【全体として】 点ではなく面で考え、それぞれのノウハウを活用する	・城陽ウォークとの連携でノウハウを生かす ・お菓子づくり職人とのタイアップ
<b>イベント</b> ・光のページェント(鴻ノ巣山)は季節感があって集客力がある ・「星野リゾートみたいにホテルが目的」という風に充実できないか ・格安の宿泊施設(アイリスイン、プラムイン)があるので、鴻ノ巣山にもっとイベントやフェスを ・それぞれのイベント共通の「何か」	・現地案内、ボランティアとして参加する	・自治会、老人会と協働 ・外に向けてPRし、人を呼び込む	・イベントに訪れた方からのアンケート ・イベントPR、HPでアピール ・初めて来る(来た)人への対応⇒リピーターの展開 ・目的を見せるだけでなく参加、体験させる工夫	・交通事業者との連携
<b>観光資源</b> ・でも、経済効果としてはほんの一部のような感じがする。あのイベントに行けばコレがある!的な・・・	・古墳、神社等の地元の歴史を知る	・外に向けてPRし、人を呼び込む	観光マップをいろんな所に置く(他市のホテル、駅など)	

### 3 班の意見と結果

#### 【3 班の会議の様子】



#### 【具体化された観光戦略への提案】

テーマ：「農作物 + 体験 + 宿泊」		子供をターゲットに
どこで	<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">青谷の梅林</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">既存の畑 (BBQ 施設を整備)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友愛の丘</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">集落の跡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">古墳</div> </div>	
誰が	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家</li> <li>・ボランティア（受け入れ側）</li> <li>・城陽市外も含めて取り組む</li> </ul>	
どうやって (方法)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     その場で食べられる 環境づくり                       栗（長期的視点で） （植える→収穫→食べる）                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     子どもの体験学習の 場づくり                       複数の農産物を 連携させる                       複数の楽しみづくり （食べる・料理・収穫体験）                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     茶つみ （すぐ飲める）                 </div> </div>	
必要なもの (道具など) 欲しい機能・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子レンジ（焼きいも）</li> <li>・収穫体験＋バーベキューが出来るように</li> <li>・もみがら（火おこし体験）</li> <li>・道の駅</li> <li>・看板、PR機能</li> </ul>	
資金調達方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、農協、観光協会などがバックアップ</li> <li>・寄付を募る（税の優遇を実施）</li> <li>・企業の出資を促進</li> </ul>	

### 【3班が考える本市の強みと弱み】

分類	強み（良いところ）	弱み（悪いところ）	その他（提案に近い内容）
滞在型観光に向けて	・既存の宿泊施設は合宿に活用されており安い	・宿泊施設が少ない。ホテルは高い。もっと駅近くに	・空き家を宿泊施設として活用
自然・気候がよい	・水がおいしい(酒屋、サントリー工場) ・気候が温暖(冬でも若干あったかい) ・空気がきれい ・自然が多い⇔住宅地(用途がはっきりしている)		・木津川を活かすべき
人づくり		・既存のコミュニティが閉鎖的	・観光ボランティアを増やす ・アピールも強化すべき
農産物	・梅林(ただし、まつりの時だけ) ・梅まつり(ただし、ゆっくり楽しめる工夫が足りない) ・米もおいしい	・良い資源はたくさんあるが工夫が不足 ・梅→後継者いない	・いちじくや桃も梅のように活かすべき ・出荷できないものを活かす ・体験できる場所づくり ・若者呼び込んで後継者づくり ・農産物+滞在型観光+体験
拠点づくり			・道の駅があるとよい(特産物販売、トイレ) ・何か思い切った事をしないと人に来てもらえない
歴史資源の活用		・点在で巡るのが面倒 ・古道ウォークに標識がない	・古墳の見せ方の工夫が必要
周辺との連携	・周辺には観光地として良い所が多い		・周辺都市と連携(京都、奈良、宇治) ・城陽を拠点に京都、奈良を観光してもらう ・マイカーで京都や奈良に来る人呼び込む ・京都や奈良目的の外国人が通過してしまうので、呼び込む工夫を ・外国人向けに外国語でPRを
その他		・高速道路の利便性を活用 ・サイクリングロードは、桜の時期は良いが沿道に何も無くPRが少ない	・観光が城陽に必要な ・課税に工夫を

### 【3班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
①農産物+体験(+宿泊)	・料理の材料としての活かし方を開発する ・商品の開発 ・情報発信	・空き家を活用し、安価な長期宿泊を可能にする ・利益をあげられる仕組みづくり ・声かけ(行政、農協、商工会) ・子供を中心にした取り組みを強化すべき ・鉄道沿線のまちの産物を持ち寄って電車イベント	・バックアップ ・協力者への税の優遇 ・全国ニュースになるような先進的な取り組み ・観光に寄与する人に特典を	・活用に向けた検討の場、組織づくりーボランティア ・収穫→食べられる物になって戻ってくる ・魅力を高めるPRをする
②京都・奈良・宇治への観光客を呼び込む	・看板でアピール ・ホームステイを促進、PR	・イベント(プロジェクションマッピング、フルマラソン) ・魅力的な観光地をつくりPRする	・知名度アップに向けてPR ・行政機関同士が連携してイベントを開催  ・各市、JR、近鉄をパーク&ライドとして活用(安く駐車できる)	・観光地に近く、安く泊まれる
③おもてなしの体制づくり	⇒ 次の段階の話になるのでは?			

## 4 班の意見と結果

### 【4 班の会議の様子】



### 【具体化された観光戦略への提案】

テーマ「特産品を活かす」			
種類	梅	芋	いちじく
どこで	青谷	観光農園	農家
誰が	城陽酒造	JAやましろ	
どうやって (方法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試飲</li> <li>・梅祭</li> <li>・梅酒づくり</li> </ul> } 既に実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芋掘り</li> <li>・ケーキ菓子</li> </ul> } 既に実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理教室（ケーキ菓子等）</li> <li>・加工品等の手作り体験</li> </ul> } 既に実施中
欲しい機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR、インターネットの充実</li> <li>・郵便局、ゆうパックコンビニの活用</li> <li>・駅前等目立つ場での提供</li> </ul>		
必要なもの (道具など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が先頭に立ち、売り込む</li> <li>・年間を通じた特産品の提供（加工品含む）</li> <li>・まとめる組織</li> <li>・農家への資金援助</li> </ul>		
資金調達 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドファンディングの活用</li> </ul>		

【4班が考える本市の強みと弱み】

分類	強み（良いところ）	弱み（悪いところ）	その他（提案に近い内容）
新たな魅力をつくる人を集める		・幹線道路の渋滞が多い	・幹線道路ができ沿道に施設立地が進むことでにぎわいが生まれる。郵政だけでなく、イケアやアウトレットモールの誘致 ・滞在時間を増やす、人を集める施設の整備（おいしい食べ物、食事を観光の中心として展開）
特産品を活かす	・特産品が四季を通じてある ・青谷の梅酒はうまい	・金銀系の後継者が少ない	・特産品の開発 ・農産物を活かす（梅、いちじく、いも畑） ・新たな高速道路のIC、JCT、PAなどに遊園地等を誘致 ・道の駅に旬菜市みたいなものができるとうまい ・道の駅のような城陽の特産物を販売して、府外の人を呼び込む ・農産物の販売所があると良い（IC周辺）
既存資源を活用する	・サンガタウン ・地元企業のPRと観光が一体化している	・イベント駐車場の確保	・イルミネーションを冬の観光の目玉に（地区への交通の便が悪い） ・史跡、古墳の活用
周辺と連携する		・色々なものが一杯あるが連携が不十分 ・色々なものがコース化されていない ・PR不足→インターネットの活用	・イメージ戦略が必要（プレミアム） ・特産品などをまとめる人、組織の整備が必要

【4班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

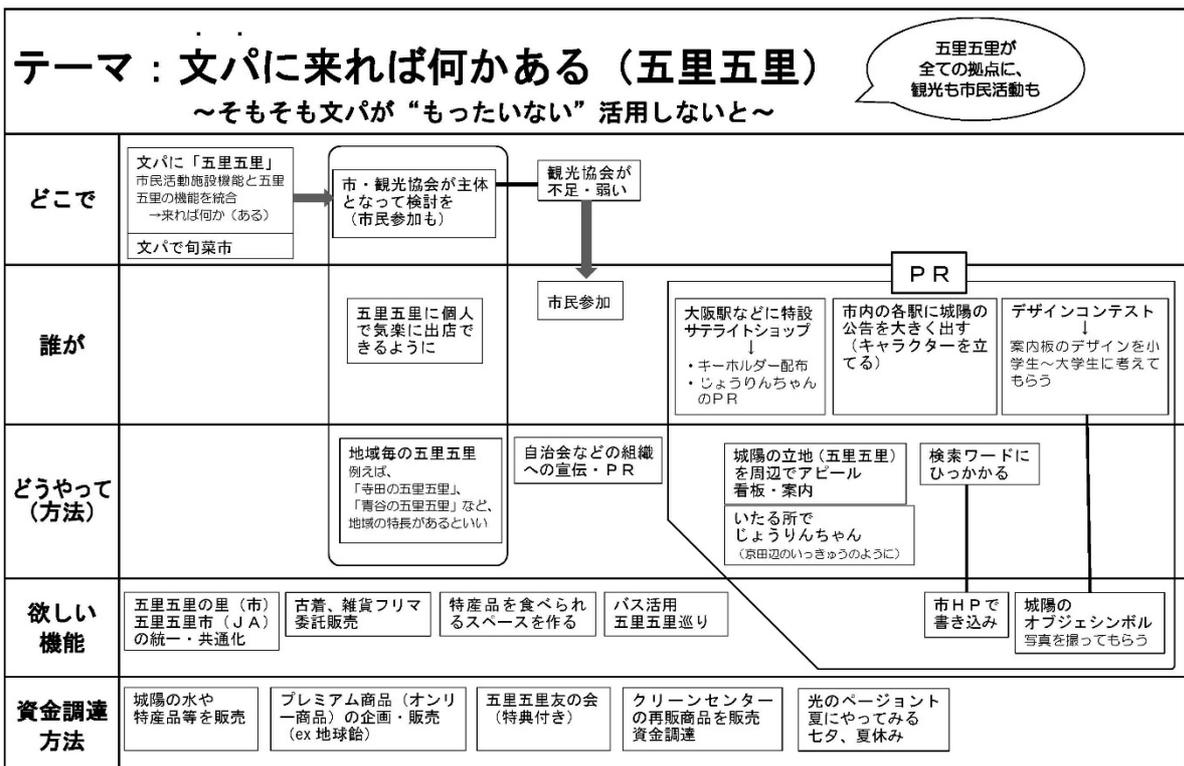
提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
特産品を活かす	・贈り物に特産品を積極的に用いる ・城陽のことを知る ・観光協会の売店を利用する	・城陽を知るためのイベントを開催する ・名物菓子をつくる ・販売促進⇒ゆうパック ・市民と行政でワーキンググループを組む	・郵便局に積極的に働きかける ・宣伝、資金の協力	・郷土料理、食事 ・プレミアム感のある商品の開発 ・特産品をコンビニに置いてもらう ・金銀系の再生、復活、ブランド化
見て楽しむ	・良く知ること。全員がガイド ・花を植えてきれいに ・街灯で明るいまちづくり ・各種イベントに積極的に参加する	・オススメスポットを知らせる、つくる ・観光ルートを設定する	・案内板の整備、充実 ・バスの入れる駅前広場を増やす ・城陽を知る機会を提供 ・近隣自治体との連携	・コンビニにポスター、パンフを置いてもらう ・企業と協力してイルミネーションを大きくしてアピール ・情報の発信（発信の仕方はそれぞれ違う） ・城陽を知る機会を提供
体験する	・イベント等に参加する ・自分で体験してみる	・いも掘り ・子供とまわれるルート設定	・あるものを活用、整備	・酒蔵見学、梅酒の試飲 ・宿泊施設の整備 ・集客イベント時に体験型イベントに参加できるように ・ゴルフツアーの誘致
観光のしやすさ（ハード面）			・観光地への道路整備 ・名神開通を踏まえた長期的な視点 ・観光の中心として駅前の整備	

## 5 班の意見と結果

### 【5 班の会議の様子】



### 【具体化された観光戦略への提案】



【5班が考える本市の強みと弱み】

強み（良いところ）	弱み（悪いところ）	その他（提案に近い内容）
<p><b>自然</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水がおいしい</li> <li>自然が身近にたくさんある</li> <li>木津川堤防の桜並木は非常に良い</li> </ul> <p><b>生産</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>てん茶、浜茶</li> <li>寺田いも、いちじく、梅おいしい</li> </ul> <p><b>歴史・文化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財多い</li> <li>水度神社、久世神社</li> <li>スピリチュアルスポット</li> <li>さつまいも</li> <li>一休の湯</li> <li>城陽ポウル</li> </ul> <p><b>産業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金銀系の製品</li> </ul>	<p><b>案内・PR</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設が少ない。アピール不足</li> <li>文化バルクの宣伝看板作成</li> <li>史跡等の駅前に案内板がない</li> <li>道が狭く案内が少ない</li> </ul> <p><b>施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商業地域が少なく、買物の楽しみが少ない</li> <li>大きな病院がない</li> </ul> <p><b>交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通の便が良くない。観光地までが遠い</li> <li>急行停車の実現</li> <li>梅林地域に駐車場がない</li> </ul> <p><b>城陽の特性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中途半端な田舎</li> <li>特色が活かせてない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント日時を固定する(祝日開催)</li> <li>名跡10ヶ所めぐりコース</li> <li>外国人の誘客(クチコミサイトの利用)</li> <li>もっと城陽の宣伝、アピールが必要</li> <li>名産のいも、柿を「干しいも」、「つるし柿」として売り出す</li> <li>観光ルートの設定、観光バスの導入</li> <li>道の駅での販売、PRの推進</li> <li>城陽の水を「名水」として販売する</li> <li>木津川堤防の「エノキ」の古木を神木に指定する</li> </ul>

【5班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光ルートの整備</li> <li>観光施設の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく観光スポットをつくるのは困難。既存のスピリチュアルスポットである水度神社、久世神社は同系列であり、ルート化して体験型として活用すべし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内板をつくる</li> <li>各駅に観光スポットを入れた看板設置</li> <li>奈良街道(長池)魅力的に</li> <li>商業にぎわいの創出</li> <li>空き店舗の活用(休憩所、サテライト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスの充実(新名神、近鉄急行の停車)</li> <li>新名神のSA、PAの活用</li> <li>国道沿いに道の駅(農産物、特産物販売所)の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッチフレーズ「隠れ名水」・名水として販売する</li> <li>ラッピング電車(城陽バージョン)</li> <li>ショップ五里五里の里の改善(場所、時間)</li> <li>駐車場の確保、バス停の設置</li> </ul>
<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内の充実</li> <li>PR、情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなでイベントを企画し参加する</li> <li>みんなが積極的に城陽をPRする</li> <li>市民に観光ポイントを知ってもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特産品をもっと市外の人知ってもらう(アピール、イベント)</li> <li>クーポン付おすすめ冊子の配布、クチコミサイト上位の飲食店、隠れた名店の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの観光面を充実</li> <li>観光パンフレットの置場を工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特産品の商品化、PR</li> <li>えきなかを活用し市の宣伝、案内をする</li> <li>電車の中吊り広告によるPR</li> <li>音楽イベントによる集客(事前のPR必要)</li> <li>宿泊施設をきれいに使う</li> </ul>

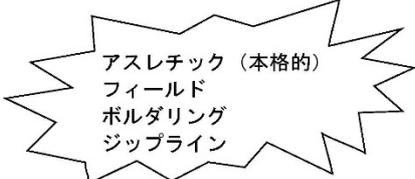
## 6 班の意見と結果

### 【6 班の会議の様子】



### 【具体化された観光戦略への提案】

#### テーマ：「目玉となる複合施設（遊びと健康）」

どこに	木津川運動公園隣接（アウトレット隣）
何を	<div style="text-align: center;">  <p>アスレチック（本格的） フィールド ボルダリング ジップライン</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 野外ステージ</li> <li>○ 体験型施設（梅、いちじく、さつまいも、勾玉）</li> <li>○ ホテル（ペット）</li> <li>○ ジョギング、ウォーキングコース、サイクリングコース ⇒木津川までつなぐ、他の拠点とつなぐ（コース沿いにひまわり、コスモスなどを植える）</li> </ul>
誰が	<p>民間（公共が関わる場合はPFIなど）</p> <p>市民（花植え、管理、体験の先生）</p>
運営	フィールドアスレチックなどは有料
課題	道路（自動車でのアクセス）

【6班が考える本市の強みと弱み】

分類	強み（良いところ）	弱み（悪いところ）	その他 (提案に近い内容)
全 般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史がある</li> <li>・京都にも奈良にも行きやすい</li> <li>・のんびりした空気感</li> <li>・興味のある人には地域の特産、史跡などいいところがあると思う</li> <li>・ウォーキング、サイクリング多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財源が少ない。</li> <li>・知名度が低い</li> <li>・目玉がない(今あるものは目玉にならない)</li> <li>・若者がいない</li> <li>・観光名所が地元民にも浸透していない。</li> <li>・地元の観光地に行ったことがない</li> <li>・中途半端な地理(京都と奈良の間)</li> <li>・観光地につながりがない</li> </ul>	
道 路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車のアクセスはよい(よくなる)(大きな道路のそば)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路が混みやすい</li> <li>・古い家が多く道路を拡張しにくい</li> <li>・梅林への道路が狭い</li> </ul>	
鉄 道		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の便が悪い</li> <li>・寺田駅からバス停までが遠い</li> <li>・近鉄駅が狭い</li> <li>・近鉄急行が停車しない</li> <li>・市の顔であるメイン通りがない</li> <li>・駅前が狭く、整備が必要</li> </ul>	
商業・遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい店がある</li> <li>・食いだおれロードが楽しい</li> <li>・何でもある(スーパー、飲食店など)</li> <li>・コンビニが多い</li> <li>・温泉一休がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食いだおれロードがアクセスしにくい</li> <li>・学生が遊ぶ場所が少ない</li> <li>・ショップ五里五里の里、旬菜市一場所が悪い</li> <li>・宿泊施設が運動公園にはあるが旅行(1泊)では京都が中心</li> </ul>	
自 然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きなゴルフ場がある</li> <li>・自然がいっぱい</li> <li>・まだまだ土地がある</li> <li>・子供の遊び場が多くある(鴻ノ巣山、木津川、文化パルク内)</li> <li>・空気がきれい、自然が残っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜並木ができるよとい(荒見神社北側)</li> </ul>	
野 菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜がおいしい(さつまいも、いちじく、梅、花菖蒲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいもの生産後継者がいない</li> </ul>	

【6班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
目 玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり畑、芝桜、コスモス</li> <li>・目玉が出来れば行ってみる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市有地の活用</li> <li>・歴史民俗資料館の活用</li> <li>・運動公園ジョギングコース(年中PR)</li> <li>・運動公園の充実⇒よそからも人が来る</li> <li>・サイクリングコース</li> <li>・市広報、ポスター</li> <li>・アプリ(ウォークラリー 京都の事例)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドアスレチック</li> <li>・アウトレットモール</li> <li>・大きなイベント(ゴルフ)</li> <li>・高速道路SA (ウォーキングコースなどを併設)</li> <li>・古墳を活かす(昔の住居再現、勾玉づくり、キャンプ施設)</li> <li>・採石跡地の利用</li> </ul>
PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアガイドとしてPRする、参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都まで30分をPR。</li> <li>・インターネットなどでPR</li> <li>・小中学校の授業で地元の名所を学習</li> </ul>		
企画・体験		<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅ジュース教室</li> <li>・食の提供(凍らせたいちじく)</li> <li>・体験型(いも掘り、梅酒づくり)</li> </ul>		
連 携				<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設(城陽から京都・奈良へ 京都のホテルは満杯)</li> <li>・工場団地⇒全国から来る。ホテル需要</li> </ul>

## 7 班の意見と結果

### 【7 班の会議の様子】



### 【具体化された観光戦略への提案】

テーマ：「梅で行く！！」	
何を	<p><b>梅商品開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発</li> <li>梅ソフトクリーム（手軽な商品）</li> <li>梅酒づくりに関わる</li> <li>梅酒づくりの後の梅を商品に</li> </ul> <p><b>梅ブランド城州白</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>梅の成分分析</li> <li>→梅のPR</li> <li>→ブランド化</li> </ul> <p><b>体験</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>袋かけ</li> </ul> <p><b>梅の有効活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存方法を考える</li> </ul>
誰がどのように	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のゼミと共同</li> <li>大学との連携</li> <li>団体×市役所</li> <li>梅林協議会</li> <li>梅工房（ソフトクリーム）</li> <li>お店の協力→市内どこでも手に入る</li> <li>子供達の教育として梅が実るプロセスを知る→後継者の育成</li> <li>高齢者の活用</li> </ul> <p>実現していくためには…</p> <p>↓</p> <p>観光に対する市民の思いは？ （住民にとって迷惑にならないように）</p> <p>観光＝市民のメリット？ （メリットがあることを広める必要あり）</p> <p>多くの市民に観光に興味をもってもらおう</p>
費用（財源）	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金が必要</li> <li>評価、財源</li> <li>共同研究（大学費用負担）</li> <li>梅の木オーナー制度</li> <li>（梅を売ることの魅力に→お金になる→オーナー集まる）</li> </ul>
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場など、受け入れる為の環境整備</li> </ul>

住環境が良い！  
（緑と太陽）  
北は 住環境がよい  
南は 自然・観光地

雇用の創出  
地域経済の活性化

【7班が考える本市の強みと弱み】

	弱み（悪いところ）	その他（提案に近い内容）
<p><b>地域の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水がおいしい(青谷、長池)</li> <li>・自然が豊か</li> <li>・買物便利</li> <li>・京都、大阪へのアクセスが良い(特に自動車)</li> <li>・治安が良い</li> <li>・玉山鉄二、内海哲也</li> <li>・遺跡、神社が多い</li> </ul> <p><b>ゾーン・施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンガタウン</li> <li>・鴻ノ巣山の巨大すべり台。子どもが楽しめる</li> <li>・古い神社→水度神社、久世神社</li> <li>・木津川の桜並木</li> <li>・梅林を前面に</li> <li>・文化パルク→ホールに来る芸能人がけっこうすごい</li> <li>・ショップ五里五里の里→いちじくを買いに来る人多い、地産食材のおそうざい</li> <li>・温泉一休</li> </ul> <p><b>イベント・行事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒見神社のお茶まつり</li> <li>・秋に見られる花火</li> <li>・12月の鴻ノ巣のイルミネーション(TWINKLE JOYO)</li> <li>・梅まつり</li> <li>・城陽マラソン</li> </ul> <p><b>企業・店舗</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LEDの会社がある</li> <li>・手打ちうどん やまびこ</li> <li>・有名なラーメン店多い</li> </ul> <p><b>特産品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物が豊か</li> <li>・柿、いちじく、寺田いも、梅</li> <li>・お茶、抹茶、茶団子</li> </ul>	<p><b>宿泊</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設がない</li> </ul> <p><b>PR</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR不足</li> <li>・城陽のお茶PR</li> </ul> <p><b>交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の便が悪い</li> <li>・無料の駐車場がない</li> <li>・近鉄急行を寺田駅に</li> </ul> <p><b>市民意識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民で共有することが少ない</li> <li>・各種団体のつながり希薄</li> <li>・城陽に大学を</li> </ul>	

【7班が考える観光戦略に向けた提案と役割分担】

提案の内容	役割り			
	私たち	協働で	行政	関係者
<p>城陽の魅力</p> <p>（歴・緑・食・陽・癒）</p> <p>ターゲットを絞る</p>	<p><b>情報発信</b></p> <p>地域のコミュニティを高めてよいところを共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い所を知る</li> <li>・区民運動会で自治会のコミュニティづくり</li> <li>・自治会のお祭り</li> <li>・活性化して良い所を伝え合う</li> </ul> <p>・クチコミ情報、SNSの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お土産のパッケージで城陽をPR</li> <li>・地域の観光大使(市と市民の連携)</li> <li>・誇れる食の情報発信(梅、いちじく、寺田いも、お茶、柿、桃(これから))</li> <li>・ころ柿、梅ジュース</li> <li>・収穫体験、散策</li> <li>・食の観光マップづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み良さ、観光を市HPで発信</li> <li>・プレミアム旅行券をアンテナショップで販売</li> <li>・城陽市SNS公式アカウント</li> <li>・ふるさと納税によるPR ⇒ 地域の特産物等によるオリジナル商品を提供</li> </ul>	
	<p><b>宿泊</b></p> <p>(体験型宿泊)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古民家農業体験(宿泊)</li> <li>・ロングステイ(魅力の体感)</li> <li>・体験、散策</li> </ul>		
	<p><b>連携</b></p> <p>(産学官連携による地域活性化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店、団体の連携(梅小町の会等)</li> <li>・特産品開発 竹炭</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PRと連携した観光PR</li> <li>・観光周遊バス 産地めぐり</li> </ul>
	<p><b>おもてなし</b></p> <p>(観光ボランティア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ボランティア</li> <li>・見所を絞ってPR</li> <li>・ツアーを組む</li> </ul>		

## 資料2 城陽未来まちづくり会議における配布資料

### (1) 全国的な観光動向や現状

#### ① 日本人の観光旅行の変化

日本人の観光旅行の変化を以下に整理します。

##### Step 1 【昭和 20 年～昭和 29 年】

戦後の観光は日本人が楽しむものでなく、外国人向けの高価な商品。このような中、日本人の旅行として修学旅行や団体旅行が復活

##### Step 2 【昭和 30 年～昭和 48 年】

団塊世代の若年時代の卒業旅行や海外旅行、職場の慰安旅行や家族旅行が中心

##### Step 3 【昭和 49 年～平成 2 年】

バブル期（好景気）までは海外旅行の急増や自家用車の普及により、マイカーを利用した家族旅行が中心

##### Step 4 【平成 3 年～】

バブル崩壊以降は観光旅行が多様化し、「安・近・短※1」が増え、またファミリー向け自動車の増加や、交通手段の多様化により、「安・遠・短※2」の傾向が強まる

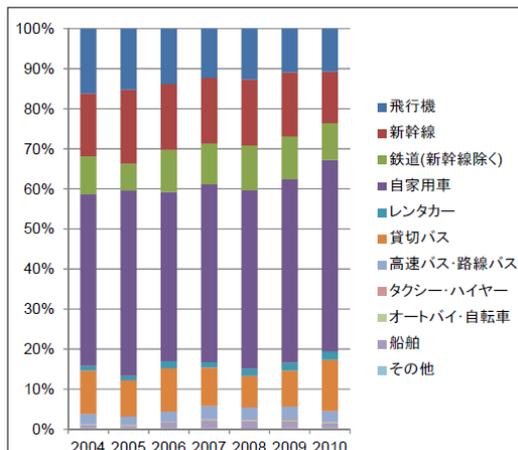
※1 安・近・短……費用が安く、距離が短く、日程が短いこと

※2 安・遠・短……費用が安く、遠くまで行けて、日程が短いこと

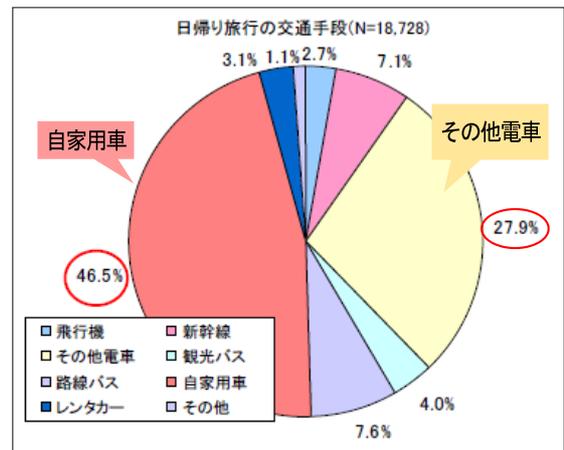
#### ② 観光旅行の交通手段

宿泊旅行者の交通手段として、飛行機や新幹線のシェアが減少する一方、自家用車・レンタカー・貸切バスのシェアが伸びています。

また日帰り旅行の交通手段として、自家用車が約半数を占めていますが、その他電車も約3割を占めています。



■ 国内宿泊旅行の(最長輸送)交通モードシェア  
資料：観光庁 旅行・観光消費動向調査

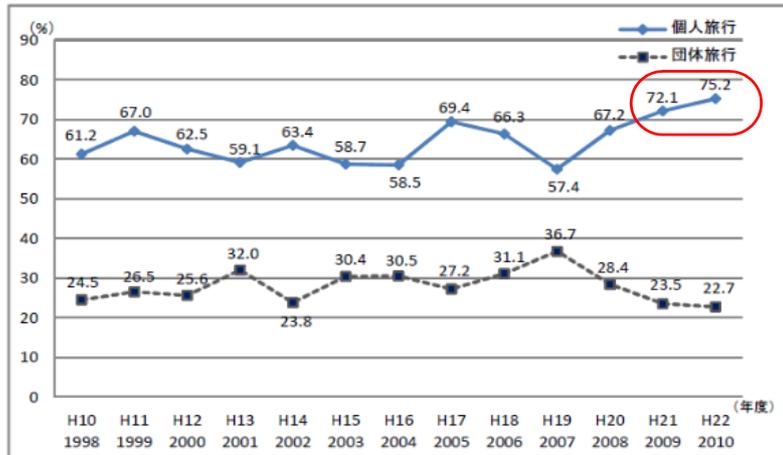


■ 日帰り旅行の交通手段  
資料：観光庁 日本人の観光旅行の状況に関する調査・分析等報告書

### ③ 観光旅行の形態

国内の宿泊観光旅行の形態をみると、団体旅行から個人旅行へ変化している傾向がみられます。平成 21 年以降は、個人旅行の割合が 7 割以上となっています。

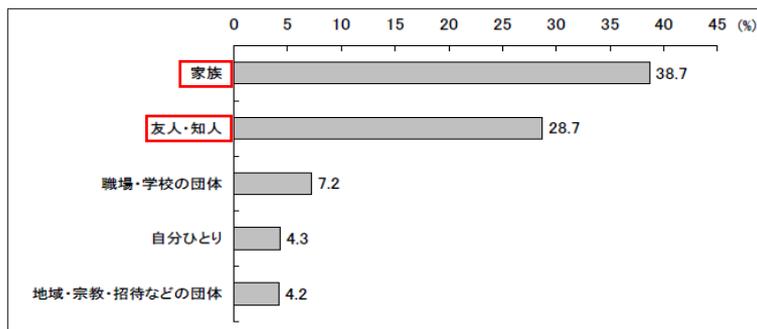
また観光旅行の同伴者は、家族や友人・知人等の小人数での行動が多くなっています。



■ 国内宿泊観光旅行における個人・団体旅行の比較

資料：社団法人日本観光振興協会

「平成 23 年度版観光の実態と志向 第 30 回国民の観光に関する動向調査」



■ 観光旅行の同行者

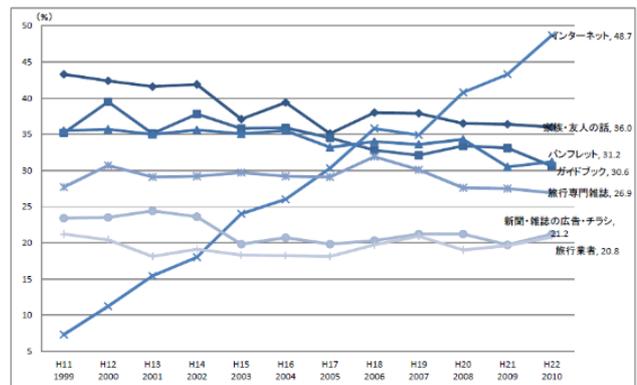
資料：社団法人日本観光振興協会

平成 18 年「観光の実態と志向」(15 歳以上の複数回答)

### ④ 観光旅行の情報源

旅行に行くにあたって参考にする情報源をまとめると以下のとおりです。

- 1 位「インターネット」：増加傾向が続き重要性が高まっています
- 2 位「家族・友人の話」：減少傾向から横ばい傾向が続いています
- 3 位「パンフレット」：ガイドブックと合せて、紙媒体も主要な情報源となっています



■ 旅行に行くにあたって参考にする情報源

資料：社団法人日本観光振興協会

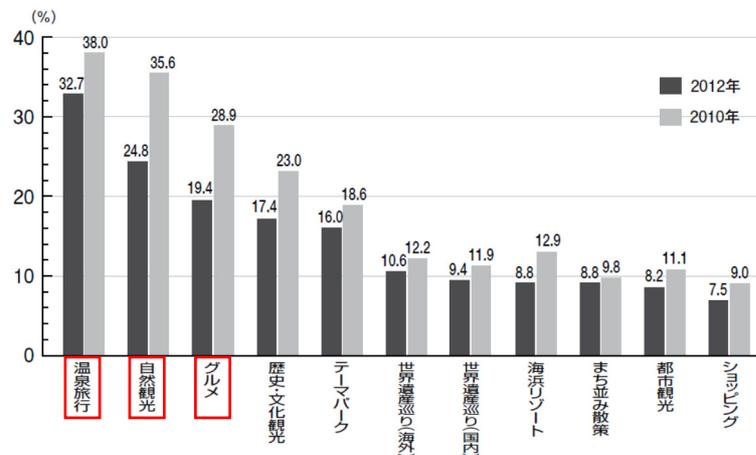
「平成 23 年度版観光の実態と志向

第 30 回国民の観光に関する動向調査」

## ⑤ 観光旅行先での行動

### ■ 行ってみたい旅行のタイプ（2012年）

1位：温泉旅行 32.7%、2位：自然観光 24.8%、3位：グルメ 19.4%となっています。

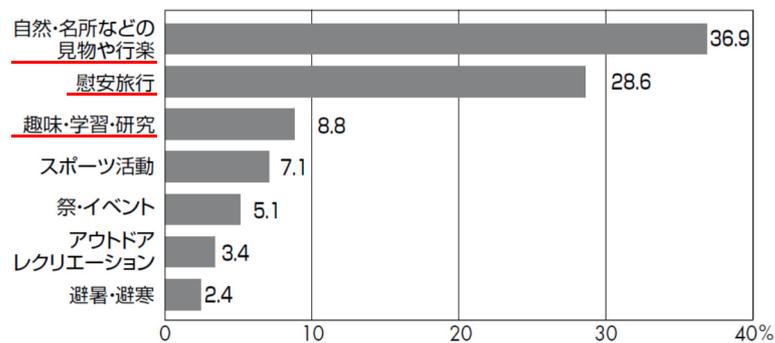


### ■ 行ってみたい旅行のタイプ

資料：（一財）日本旅行業協会 数字で語る旅行業

### ■ 宿泊旅行の主な目的の順位

1位：自然・名所などの見学や行楽 36.9%、2位：慰安旅行 28.6%、3位：趣味・学習・研究 8.8%となっています。



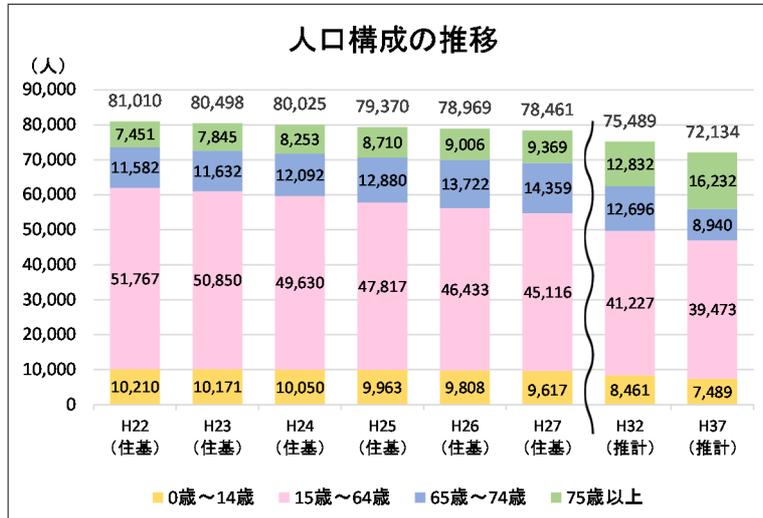
### ■ 宿泊観光旅行の主な目的

資料：（一財）日本旅行業協会 数字で語る旅行業

## (2) 城陽市の特性

### ① 城陽市の人口推移

城陽市の人口はごく緩やかに減少を続けています。また、年齢4区分別の人口構成比をみると、65歳以上が増加し64歳以下が減少しています。



#### ■ 年齢4区分別の人口構成の推移

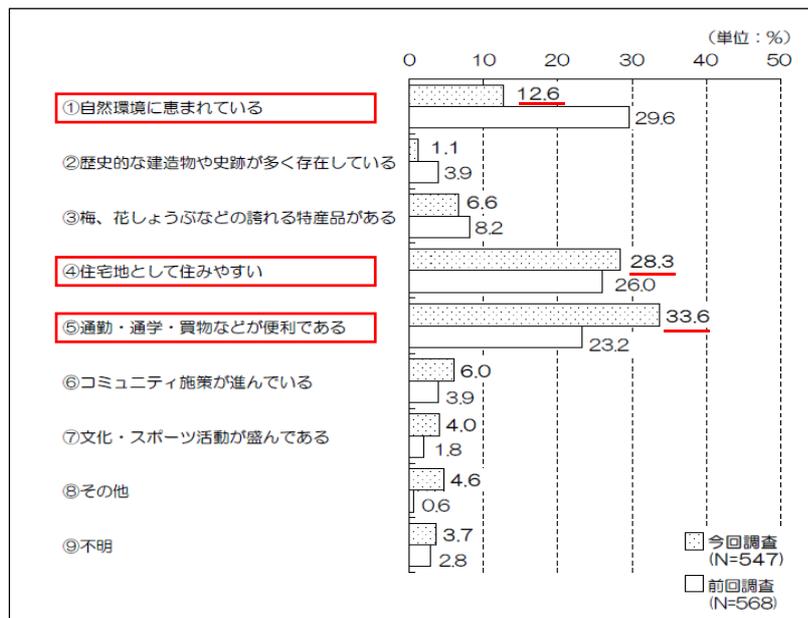
資料：H22～H27は住民基本台帳（各年4月1日）

H32・H37は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計

### ② 城陽市の魅力

城陽市の魅力の順位は以下のとおりです。

- 1位：⑤通勤・通学・買物などが便利 33.6%（前回調査では3位）
- 2位：④住宅地として住みやすい 28.3%（前回調査では2位）
- 3位：①自然に恵まれている 12.6%（前回調査では1位）

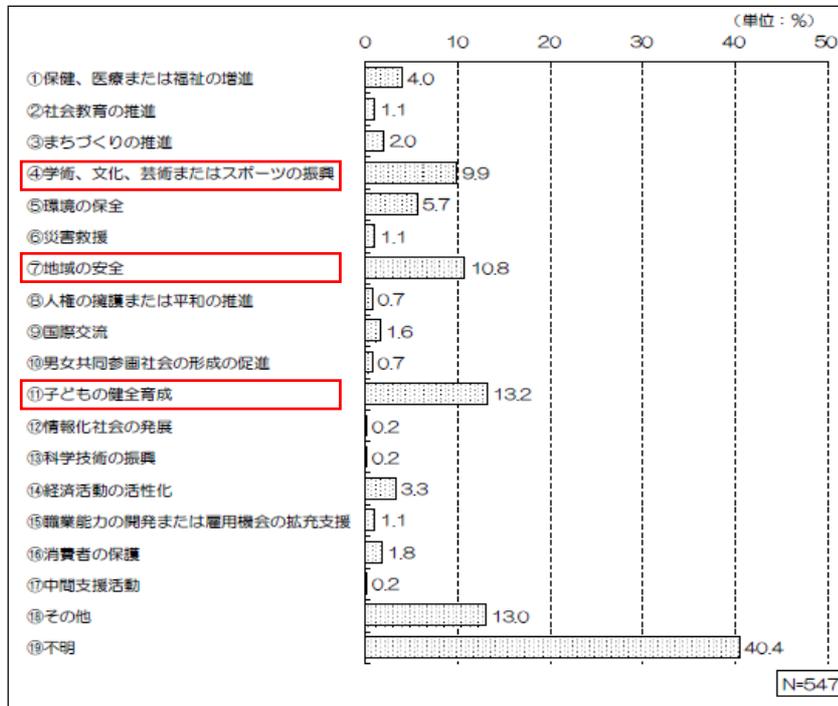


■ 城陽市の魅力 資料：城陽市市民意識調査（平成23年10月実施）

### ③ 地域活動の参加状況

地域活動の参加状況は以下のとおりです。

- 1位：⑪子どもの健全育成 13.2%
- 2位：⑦地域の安全 10.8%
- 3位：④学術・文化・芸術またはスポーツの振興 9.9%

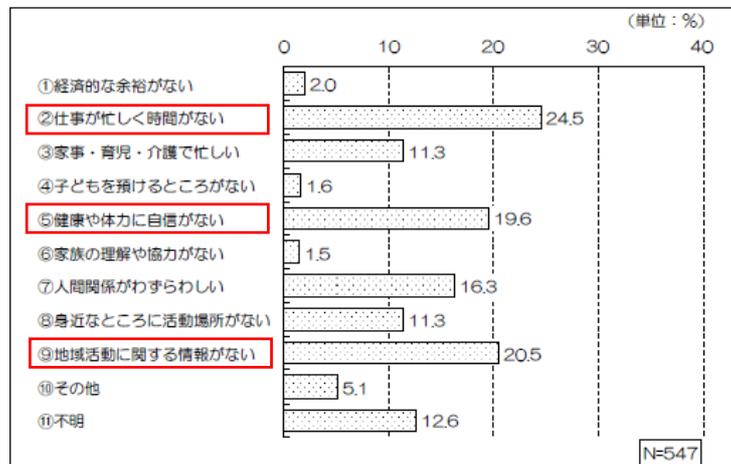


■ 地域活動の参加状況 資料：城陽市市民意識調査（平成23年10月実施）

### ④ 地域活動参加の際に支障になること

地域活動を行う際に支障となる内容は以下のとおりです。

- 1位：②仕事が忙しく時間がない 24.5%
- 2位：⑨地域活動に関する情報がない 20.5%
- 3位：⑤健康や体力に自信がない 19.6%

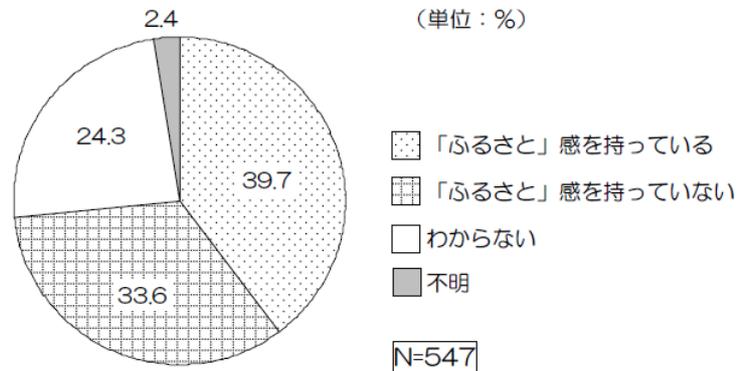


■ 地域活動への支障 資料：城陽市市民意識調査（平成23年10月実施）

### ⑤ 城陽市への「ふるさと感」の状況

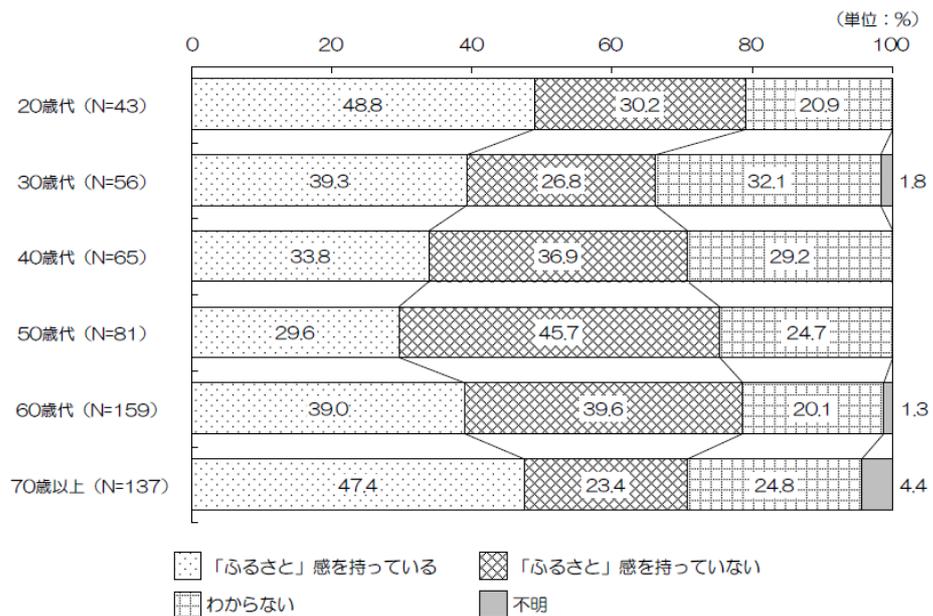
城陽市への「ふるさと感」は、「ふるさと感をもっているが」39.7%、「ふるさと感をもっていない」が33.6%となっており、「ふるさと感をもっている」がやや多くなっています。

年代別にみると、20歳代・30歳代・70歳以上で「ふるさと感をもっている」が多くなっており、40歳代・50歳代・60歳代で「ふるさと感をもっていない」が多くなっています。



#### ■ 城陽市への「ふるさと感」の有無（全体）

資料：城陽市市民意識調査（平成23年10月実施）



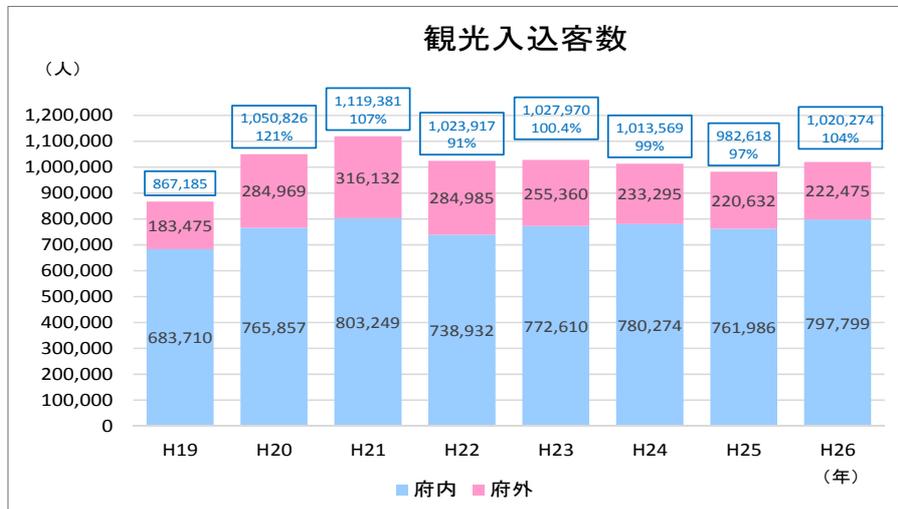
#### ■ 城陽市への「ふるさと感」の有無（年代別）

資料：城陽市市民意識調査（平成23年10月実施）

### (3) 城陽市の観光の状況

#### ① 城陽市全体の観光入込客数の推移

城陽市の主要な観光施設の入込客数は、おおむね 100 万人前後で推移しています。このうち、府内からの観光客が 75 万人、府外からの観光客が 25 万人となっています。

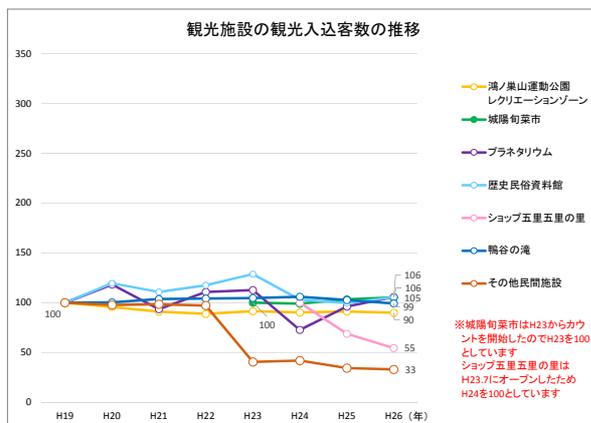


■ 城陽市の観光入込客数の推移 資料：城陽市観光入込客調査

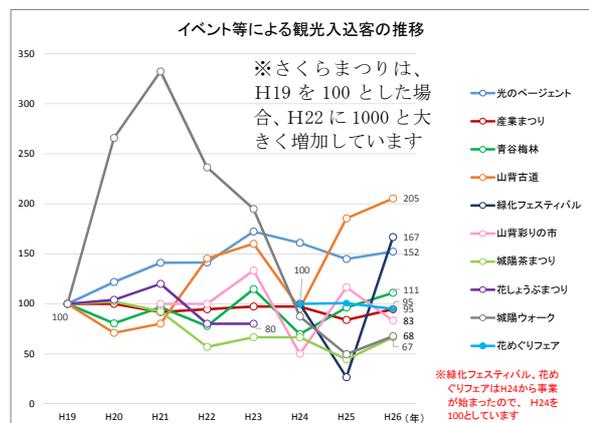
#### ② 平成 19 年を 100 とした観光入込客の推移

平成 19 年を 100 とした観光施設の観光入込客数の推移をみると、全体的に横ばいでも推移していますが、その他の民間施設やショップ五里五里の里は減少傾向となっています。

同じく平成 19 年を 100 としたイベント等による観光入込客数の推移をみると、山背古道は平成 24 年度に一旦減少していますが、全体的にみると増加傾向となっています。一方、城陽ウォークと茶まつりは平成 19 年度の半数近くまで減少しています。



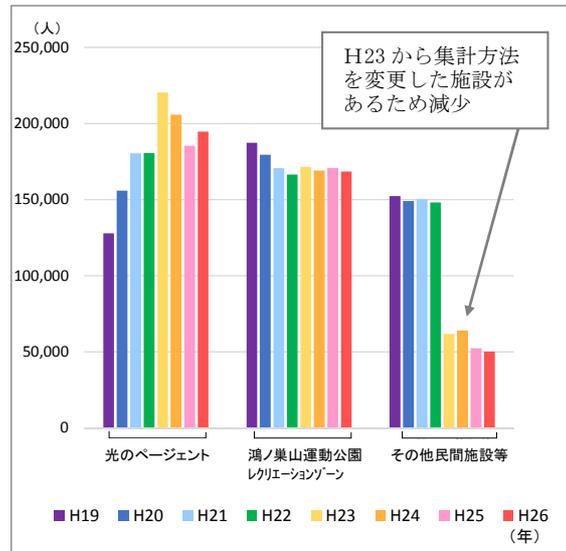
■ 平成 19 年を 100 とした入込客数の推移 (施設関係) 資料：城陽市観光入込客調査



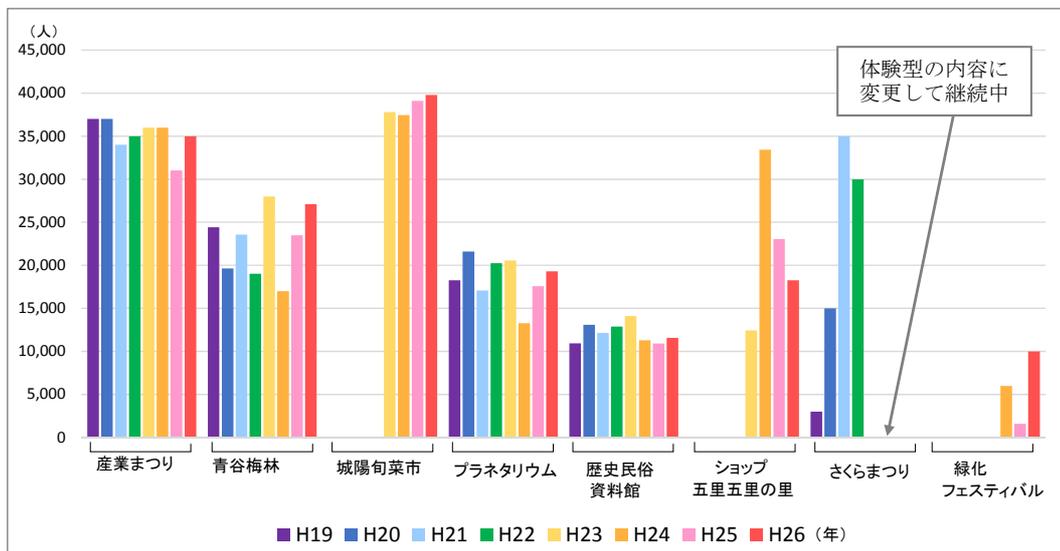
■ 平成 19 年を 100 とした入込客数の推移 (イベント関係) 資料：城陽市観光入込客調査

### ③ 年別観光入込客数の推移

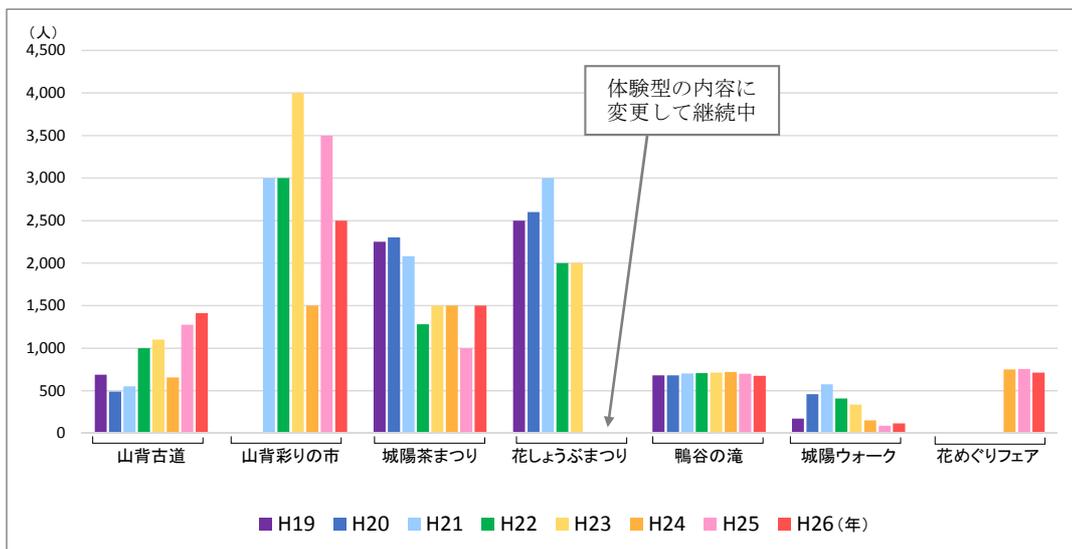
年別の入込客数の推移をみると、青谷梅林、城陽旬菜市、山背古道は増加傾向にあります。そのほかは横ばい、または減少傾向となっています。



■ 年別観光入込客数の推移（5万人以上）  
資料：城陽市観光入込客調査



■ 年別観光入り込み客数の推移（1万人以上） 資料：城陽市観光入込客調査



■ 年別観光入込客数の推移（1万人未満） 資料：城陽市観光入込客調査

## 資料3 会議開催に向けた事前アンケート調査

### (1) 調査の概要

#### 《調査の目的》

「城陽未来まちづくり会議（55人委員会）」は、1つのテーマについて交流と対話を行い、その意見を市民の声として行政への提案のつなげ、また交流の場を通じて地域社会のつながり（コミュニティ）を高めるためを目的に開催しました。

このアンケート調査は、城陽未来まちづくり会議を実りあるものとしていくため、無作為に抽出した市民1,800人を対象に、会議への参加依頼（P.43）とともにアンケート用紙（P.44）を郵送し、調査を実施しました。

#### 《調査の概要》

- |          |   |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 城陽市全域   |
| (2) 調査対象 | 城陽市在住の満18歳以上の男女個人から無作為で1,800人を抽出（平成27年6月1日現在） |
| (3) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収）                                |
| (4) 調査時期 | 平成27年6月                                       |
| (5) 回収数  | 431件（回収率23.9%）                                |

※グラフ中に出てくる「N=〇〇」は有効回答数を表しています。

集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがあります。



(参加依頼)

## 第2回 城陽未来まちづくり会議 (55人委員会)



ぜひ参加  
してね!

城陽市役所から、『城陽未来まちづくり会議』への参加のご案内です。  
(この案内は、無作為に抽出された1,800人の城陽市民の方に送付しています)  
 会議開催の趣旨をご理解いただき、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

**市民の皆さまの“声”が、明日の城陽をつくります!**

○ 城陽未来まちづくり会議(55人委員会)とは?

城陽市民55人によって構成される当会議にご参加いただき、あらかじめ設定された1つのテーマについて、交流と対話・討議を行い、その声を市政に活かしていこうとする取り組みです。  
(専門知識などは不要です)  
 前回は「高齢社会における公共交通のあり方」をテーマに開催し、その結果を取りまとめた報告書が市ホームページまた市内の行政資料情報コーナーで閲覧できます。ぜひご覧ください。

○ 今回のテーマは?

「**城陽市の観光**」をテーマに討議を行っていただきます。

○ 会議メンバーの対象者は?

18歳以上の城陽市民を対象としています。(性別不問)

○ 開催日、開催場所は?

平成27年8月29日(土)、9月26日(土)の2日間 開催します。両日参加をお願いします。  
 場所は 文化パルク城陽 4階大会議室 です。  
(詳しくは裏面参照)

※下記の参加承諾書に、参加の承諾について・お名前・ご住所・年齢・性別・電話番号をご記入のうえ、「対象者アンケート」とともに返信用封筒に入れ、7月10日(金)までにご投函ください

皆さまのご参加を心よりお待ちしております

**第2回 城陽未来まちづくり会議 参加承諾書**

第2回城陽未来まちづくり会議への参加について  
(右のいずれかを○で囲んでください)

	「承諾する」	「承諾しない」			
お名前			年齢	歳代	性別
ご住所	城陽市				
電話番号	( ) -				
その他連絡事項(配慮を要する事項等があればお書きください)					

城陽市 企画管理部 秘書広博課

### 城陽未来まちづくり会議(55人委員会)の詳細について

- 1 会議名  
城陽未来まちづくり会議(55人委員会)
- 2 目的  
市民主体のまちづくりを一層促進するため、市民の参画のもと、城陽未来まちづくり会議(55人委員会)を設置し、1つのテーマについて交流と対話・討議を行い、その意見を市民の声として市政への提案に繋げます。また、交流の場を通じて地域社会の繋がりが(コミュニティ)を高める一助とします。
- 3 会議概要
  - (1) 開催日時 平成27年(2015年)8月29日(土) 10:00~16:00  
平成27年(2015年)9月26日(土) 10:00~12:00  
※1日目の昼食はご用意いたします
  - (2) 開催場所 文化パルク城陽 4階大会議室
  - (3) 会議内容
    - ① テーマ 「**城陽市の観光**」
    - ② 方式 参加者がグループに分かれて、グループ毎に市民全体に関わるような施策をワークショップ方式等により討議していただきます。なお、討議の前に必要な情報を提供いたします。(専門知識などは不要です) 討議にあたっては、ファシリテーターの進行により各グループでテーマに沿って話し合いを行い、意見をまとめていきます。
  - (4) 謝 礼 2日で3,000円
  - (5) その他
    - ① 参加承諾人数が定員数(55人)を上回った場合は、抽選により参加者を決定します。
    - ② 結果は承諾者全員に通知します。また、参加決定者には当日討議を行う内容や流れなどを記載した「事前資料」を郵送する予定です。
    - ③ 市では、城陽未来まちづくり会議の様子について、市民の皆さまに広くお伝えしていきます。そのために必要な写真撮影や画像等の広報での活用について、ご了承のほどお願いいたします。
    - ④ 会議当日は、託児サービスを実施いたします。※6カ月~就学前まで

**【お問い合わせ先】**  
 城陽市 企画管理部 秘書広博課 担当: 浜崎、竹原  
 電話 (0774)56-4051 FAX (0774)55-7774 Mail: koho@city.joyo.lg.jp

参加承諾書の記入方法、郵送方法について

※会議への参加について、「承諾する」「承諾しない」のいずれかを○で囲んでください。

※お名前・ご住所・年齢・性別・電話番号は必ず記入をお願いします。

※年齢欄は10歳区切りで、「〇〇歳代」と記入してください。 <例>:21歳~20歳代、69歳~60歳代

※その他連絡事項欄は、会議に参加されるにあたり、特に配慮を要する事項がある場合にご記入ください。

※必要事項をご記入の上、切り取り線で切り取って、別紙「対象者アンケート」とともに同封の返信用封筒に入れて封をし、7月10日(金)までに郵便ポストに投函してください。(切手不要、当日消印有効)

※ご記入いただいた内容については、城陽未来まちづくり会議の目的以外には使用いたしません。

# (アンケート用紙)

## 第2回 城陽未来まちづくり会議 対象者アンケート

このアンケートは、城陽未来まちづくり会議の開催にあたり、無作為に抽出いたしました1,800人の市民の皆さまを対象として、参加のご依頼とともにお送りしているものです。昨年度から開始し、第2回目を迎える「城陽未来まちづくり会議(55人委員会)」を、市民の皆さまとともにより実りあるものとしていくため、趣旨をご理解いただき、ご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成27年(2015年)6月

城陽市

### ご記入にあたってのお願い

1. ご回答は、原則として封筒の宛名ご本人をお願いします。
2. ご記入は、鉛筆または黒のボールペンをお願いします。
3. ご回答は、質問1から順番にお答えください。
4. ご回答は、設問ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。なお、「その他」にあてはまる場合は、その内容を( )内に具体的に記入してください。
5. ご記入が終わりましたら、返送用封筒に「参加承諾書」とともに入れて、郵送にて7月10日(金)までにご返送ください。(切手は不要です)
6. ご記入にあたり、質問などがありましたら、下記までお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ先】

城陽市 企画管理部 秘書広報課 担当：浜崎、竹原  
電話(0774)56-4051 FAX(0774)55-7774

質問1 全員にお伺いします。あなた自身のことについてお答えください。

(1) 性別を選んでください。

- ①男性 ②女性

(2) 年齢層を選んでください。

- ①10～20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代  
⑤60歳代 ⑥70歳代 ⑦80歳代以上

質問2 全員にお伺いします。城陽未来まちづくり会議(55人委員会)の参加案内を最初にご覧になったとき、どのようにお感じになりましたか。最も当てはまるもの1つを選んでください。

- ①面白そうだった ②興味がなかった ③内容が分かりづらかった  
④その他( )

【裏面へ】

1

質問3 全員にお伺いします。今回のように無作為抽出の市民の皆さまに案内状をお送りし、参加者を募る方法について、どのようにお考えですか。最も当てはまるもの1つを選んでください。

- ①多くの市民が参加の機会を得られて、よいことだと思う  
②関心のない市民にも案内が届くので効率的でないと思う  
③その他( )

質問4 全員にお伺いします。あなたは城陽未来まちづくり会議への参加を承諾されましたか。

- ①承諾した ②承諾しなかった

質問5 質問4で「②承諾しなかった」とご回答された方にお伺いします。参加を承諾されなかった理由は何ですか。最も当てはまるもの1つを選んでください。

- ①参加したかったが今回は都合が合わない ②拘束時間が長すぎる  
③会議そのものに関心がなかった ④土曜日は参加できない  
⑤2日間の参加が難しい ⑥謝礼が少ない ⑦心身の不調のため  
⑧その他( )

質問6 全員にお伺いします。今後、城陽未来まちづくり会議で扱って欲しいテーマはありますか。(複数回答可)

- ①教育 ②子育て ③環境 ④農業 ⑤商工観光業 ⑥道路・交通 ⑦都市計画  
⑧市民活動 ⑨高齢者・障がい者福祉 ⑩防犯・防災 ⑪医療  
⑫自然・歴史・文化財 ⑬その他( )

質問7 その他、ご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。  
同封の返送用封筒に「参加承諾書」とともに入れて、7月10日(金)までにご返送ください。

2

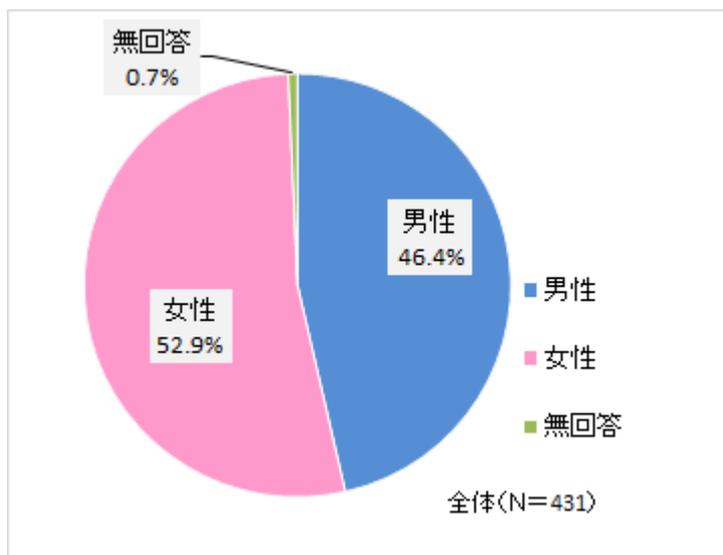
## (2) 調査の結果

### 【質問1】あなたご自身のことについてお答えください。

#### (1) 性別

- 回答者の性別をみると、男性が46.4%、女性が52.9%で女性の割合が高くなっています。

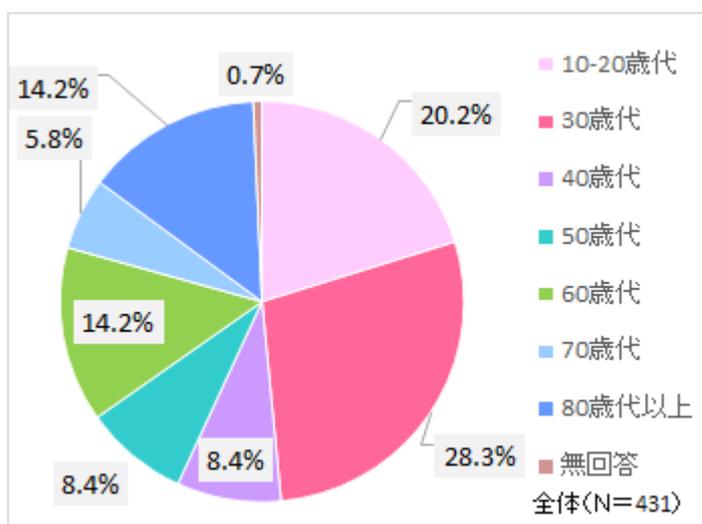
	回答数	割合
男性	200	46.4%
女性	228	52.9%
無回答	3	0.7%
合計	431	100.0%



#### (2) 年齢層

- 回答者の年齢層をみると30歳代が最も多く28.3%、次いで10-20歳代が20.2%の順になっています。

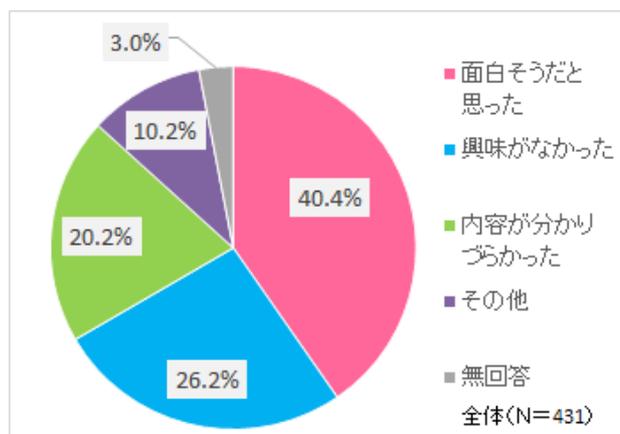
	回答数	割合
10-20歳代	87	20.2%
30歳代	122	28.3%
40歳代	36	8.4%
50歳代	36	8.4%
60歳代	61	14.2%
70歳代	25	5.8%
80歳代以上	61	14.2%
無回答	3	0.7%
合計	431	100.0%



【質問2】城陽未来まちづくり会議（55人委員会）の参加案内を最初にご覧になったとき、どのようにお感じになりましたか。

- ・「面白そうだった」と思ったが最も多く40.4%を占めています。
- ・次いで「興味がなかった」が26.2%となっています。
- ・「内容が分かりづらかった」は20.2%となっています。

	回答数	割合
面白そうだった	174	40.4%
興味がなかった	113	26.2%
内容が分かりづらかった	87	20.2%
その他	44	10.2%
無回答	13	3.0%
合計	431	100.0%



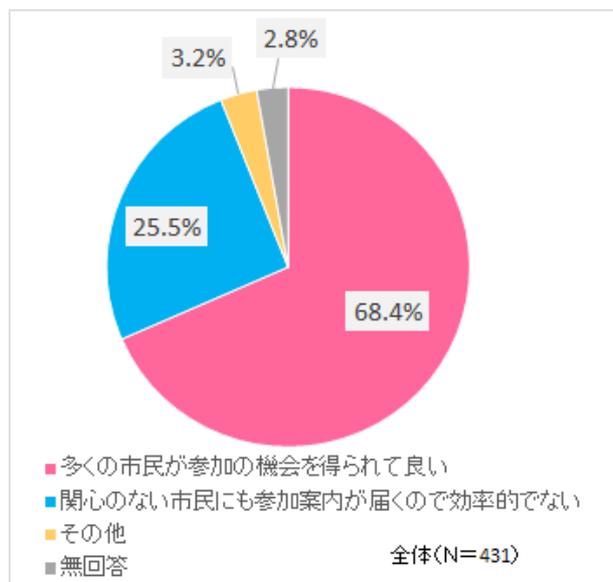
《その他の主な意見》

- ・難しそうと思った。
- ・荷が重いと思った。
- ・どういう風を選んでいるのだろうと思った。
- ・希望が湧き将来に夢を抱かせる。
- ・55人という大人数でどう意見を集約するのだろうと思った。
- ・テーマに関心がない。
- ・何をしたいのかわからない。
- ・仕事の都合がつけられない。
- ・面白い取り組みだなと感じたが、参加しようとは思わなかった。
- ・どのように対応していいのか迷った（あまり考えたことのないテーマであること）。
- ・予定がすでに入っていたので残念だった。

【質問3】今回のように無作為抽出の市民の皆さまに案内状をお送りし、参加者を募る方法について、どのようにお考えですか。

- ・68.4%の人が「多くの市民が参加の機会を得られて良い」と回答しています。
- ・25.5%の人が「関心のない市民にも参加案内が届くので効率的でない」と回答しています。

	回答数	割合
多くの市民が参加の機会を得られて良い	295	68.4%
関心のない市民にも参加案内が届くので効率的でない	110	25.5%
その他	14	3.2%
無回答	12	2.8%
合計	431	100.0%



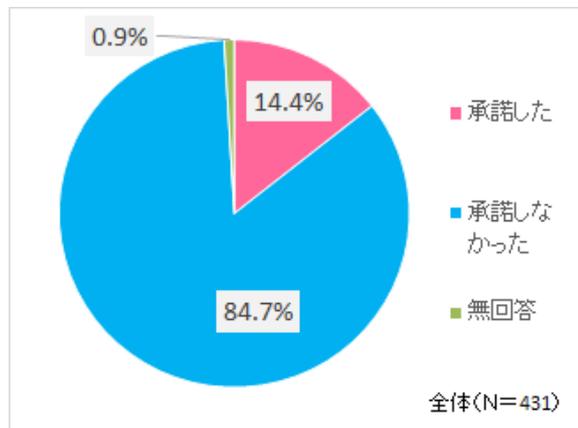
#### 《その他の主な意見》

- ・あまりにも高齢者は参加できない。
- ・関心のある市民に案内が届かない場合があり効率的でないと思う。
- ・私の周りにとっても関心を持った方がおられます。公募されたらどうでしょうか。
- ・年代をもうすこし絞るべき、若い人限定（10～50代）にしたほうがいい。
- ・よく分からない。
- ・市としての取組を改めてわかりましたが興味があっても定員オーバーで抽選になればお互いに意見交換の場がなく残念です。
- ・効率的でないとはまでは思わないが関心のない人が多そうと思った。

【質問4】 城陽未来まちづくり会議への参加を承諾されましたか。

- ・14.4%の人が「承諾した」と回答しています。
- ・84.7%の人が「承諾しなかった」と回答しています。

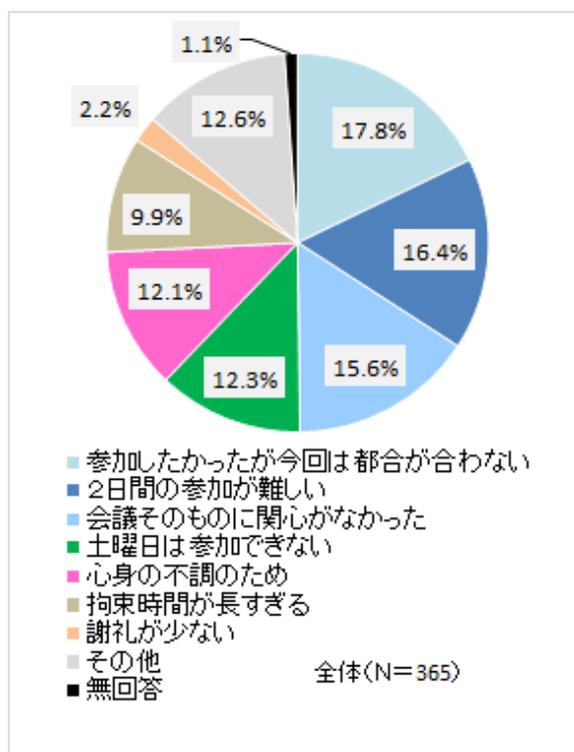
	回答数	割合
承諾した	62	14.4%
承諾しなかった	365	84.7%
無回答	4	0.9%
合計	431	100.0%



【質問5】 参加承諾をされなかった理由は何ですか。

- ・最も多かった理由は「参加したかったが今回は都合が合わない」となっています。
- ・次いで「2日間の参加が難しい」が16.4%となっています。

	回答数	割合
参加したかったが今回は都合が合わない	65	17.8%
2日間の参加が難しい	60	16.4%
会議そのものに関心がなかった	57	15.6%
土曜日は参加できない	45	12.3%
心身の不調のため	44	12.1%
拘束時間が長すぎる	36	9.9%
謝礼が少ない	8	2.2%
その他	46	12.6%
無回答	4	1.1%
合計	365	100.0%



《その他の主な意見》

- ・仕事の為都合が合わない。
- ・本当に無作為なのか疑問があり、参加したとしても自分の意見が反映されるような会議になるとは思わない。
- ・今回のテーマに興味なかった。
- ・まちのことをよく知らないから。

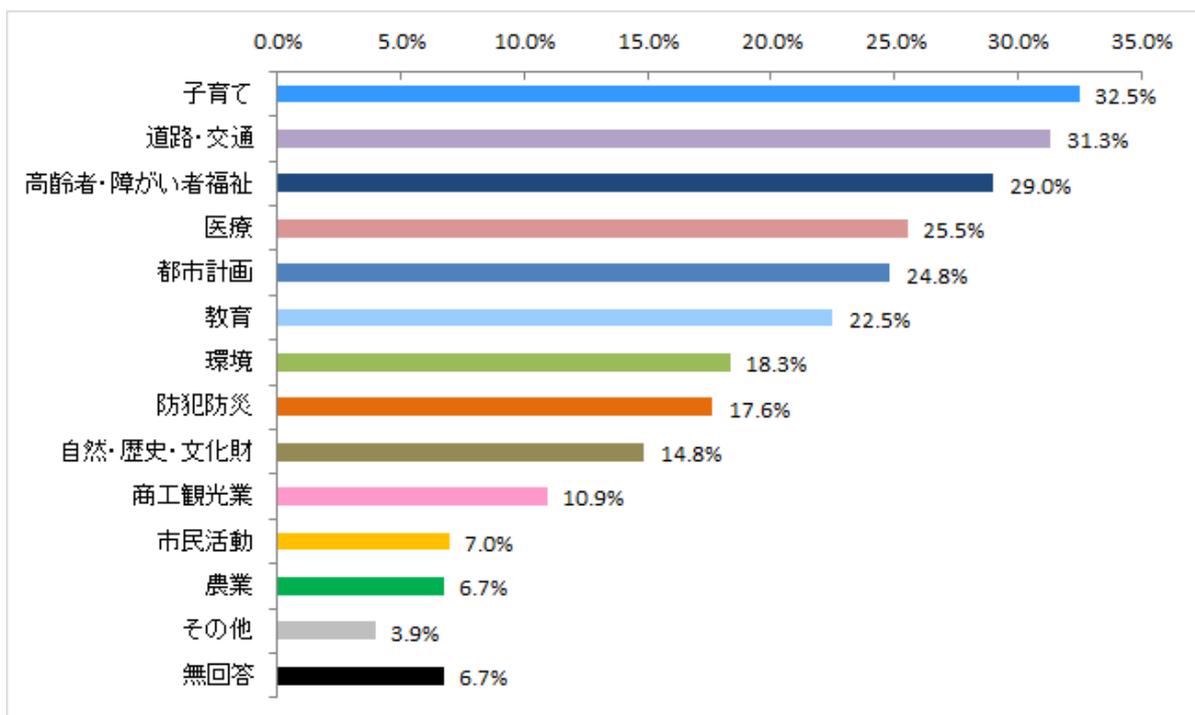
【質問6】 今後、城陽未来まちづくり会議で扱って欲しいテーマはありますか。（複数回答）

- ・「子育て」が32.5%と最も多くなっています。
- ・次いで「道路・交通」が31.3%となっています。
- ・「高齢者・障がい者福祉」「医療」「都市計画」「教育」はいずれも20%以上となっています。

	回答数	割合
子育て	140	32.5%
道路・交通	135	31.3%
高齢者・障がい者福祉	125	29.0%
医療	110	25.5%
都市計画	107	24.8%
教育	97	22.5%
環境	79	18.3%
防犯防災	76	17.6%
自然・歴史・文化財	64	14.8%
商工観光業	47	10.9%
市民活動	30	7.0%
農業	29	6.7%
その他	17	3.9%
無回答	29	6.7%
合計	1,085	

《その他の主な意見》

- ・少子化対策。
- ・若い者が希望を持てる市に、チャンスがあればほかの町へ移りたい。
- ・どれも順番に必要と思う。
- ・高齢化対策を早くからどんどん進める。
- ・近隣の市町村を含めた広域を含まないと将来の発展はない。考えが小さすぎる。



## 【質問7】自由意見

<p>・城陽市の気候・環境・風土には魅力があると思いますが、生かしきれていないように感じます。（お茶やあらすいも）京都⇄奈良の移動の途中にふと立ち寄って休憩できるような大きいカフェなどがJR城陽駅前や寺田駅前にあればいいなと思います。松井山手のスターバックスのような雰囲気。オシャレ・レトロな街になればいいなと思います。</p>
<p>・市外からのウォーカーやサイクリング利用者から道を訊かれることが多くて、それを考えると案内所や表示板などが少なすぎるのかな？とその度に思います。</p>
<p>・宇治市にも負けず、京都にも城陽ありと もっとアピールできればよいと思います。</p>
<p>・2年前の秋ごろの花火大会を開催してほしい。そして継続してもらえればと思います。</p>
<p>・城陽の特産物（梅、いちじく、サツマイモ）をもう少し活かして、アピールしていったらいいのではないかと思います。また、城陽も観光するところが沢山あると思うので、レンタル自転車を設置してはどうかと思います。</p>
<p>・周辺のまちを含めた中で考えるべきだと思います。城陽市だけ、とスケールを小さく持つのではなく、もっと大きな範囲の考えをするべきだと思います。</p>
<p>・国道307号はサイクリングの方も多いので、木津川沿いか新しくできる道の駅に自転車用の設備があると良いと思います。また、そういう催し物もあれば来ていただけるのかなと思います。住民も観光客も楽しめるような場所になればいいなと思います。</p>
<p>・梅林の存続を危惧して、活動しています。城陽市の特産としての梅を農産物として又、観光資源として もっと活用する施策を、多くの市民の方と意見交流する中で考えたいです。</p>
<p>・新名神高速道路が完成したあかつきには、京都南部の交通の拠点となり、それを見越した道路の整備、都市計画が必要だと思います。</p>
<p>・高齢者や障がい者を法律の枠に縛られず、社会を構成する層として、人生を輝かせられるようにするため、社会に果たす役割とその環境づくりを政策として取り組むことが必要だと思います。</p>
<p>・子育てのしやすいまちや高齢者に楽しい余生を送ってもらえるまちづくりのために、具体的に低収入層の子育て世帯の救済策や高齢者の買い物難民をどうするか？など本気で取り組まないと若年世帯の流出や少子高齢化は止められないと思います。もっと街の声をしっかり聞くべきです。</p>
<p>・無作為抽出は納得できない。</p>
<p>・城陽市でもっと京都サンガを盛り上げてほしいと思います。応援のぼりなどを掲げるなど…他のチームと比べて京都サンガは圧倒的に少ないと思います。</p>
<p>・城陽市立学校給食センター前の道や、そこから城陽警察署方面へ下る西行きの高架など、ダンプが通る道に砂等が積もるほど大量に落ちているので汚すぎます。道に出る前に泥を落とすなど、道を汚さないようにしてもらいたいです。車で走ったり、歩いたりすると雨の日などはかなり汚れます。他府県の人が城陽に来た時に「城陽は汚い所」と思われないうにきれいにすべきだと思います。</p>

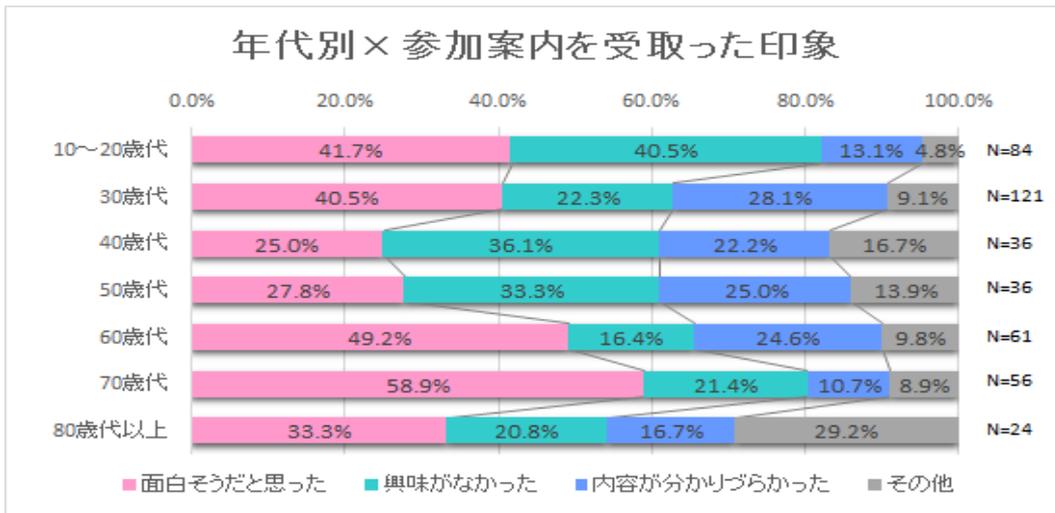
<p>・毎朝交通整理の人が通学路に立ち、子どもたちの安全を守ってくださっています。子どもたちは「おはよう」とか「ありがとう」の言葉もなく無表情で通り過ぎます。そんな子供たちがすごく心配です。</p>
<p>・自転車の交通規制が厳しくなりましたが、毎朝自転車で右側を走って通学や通勤をする人がいて危なくて歩きづらいです。</p>
<p>・道路工事が進み、通るたびに变化していてびっくりしています。これからどんな城陽になっていくのか、期待と不安の気持ちがありますが、完成した時は、全員がハッピーになれるように願っています。</p>
<p>・未来まちづくり会議のことを知らなかったので、もっと市民に会議のことを知ってもらえるようにした方がいいと思います。</p>
<p>・自分の住んでいる街の活性化や将来について、真剣に考えてみることは、進んで皆がしなければいけないことかとは思いますが、思うだけで日々何もせず忙しさを理由に暮らしていることは、反省しなければいけないとこの会議の案内を見て思いました。</p>
<p>・行政が市民の意見・考えを直接聞く機会を設けられたことを大変うれしく思います。また、共に一人の市民としてまちの未来に対する責任というものも感じさせられました。</p>
<p>・無作為で抽出しても、土曜の出席となると参加できない人も多いのではないかと思います。ネット等自宅でも参加できる方法を考えてはどうかと思います。</p>
<p>・無作為に選ぶのではなく、テーマに合った年代を選ぶ方が良いと思います。</p>
<p>・特産の金銀糸を使った若者（高齢者）向けの装飾品、スカーフやバック、スマホケースなど、他府県のようにみんなが寄附したいと思うような特産品を考えてはと思います。</p>
<p>・毎年どこかで大きな災害が起きており、市として、どのような防災の取り組みをされており、市民にどれほど周知されているのかわからないです。</p>
<p>・働く世代、子育て世代にとって住みたくなるまちになってほしいです。</p>
<p>・城陽市が人口減となり、また、高齢者が多くなり活気がないように思います。若い人が住みやすい街、産婦人科、小児科があり幼稚園、保育所などが完備出来ればと良いと思います。</p>
<p>・若者が定着すると町が活性化すると思いますが、そのためにはどうすればよいかを重点的に考えるべきだと思います。</p>
<p>・偏差値の高い高校づくりのために、教育に力を入れ、ファミリー層の移住に期待すると良いと思います。</p>

《クロス集計》

① 年代別×参加案内を受取った印象

城陽未来まちづくり会議の参加依頼を受け取った印象を年代別に集計しました。

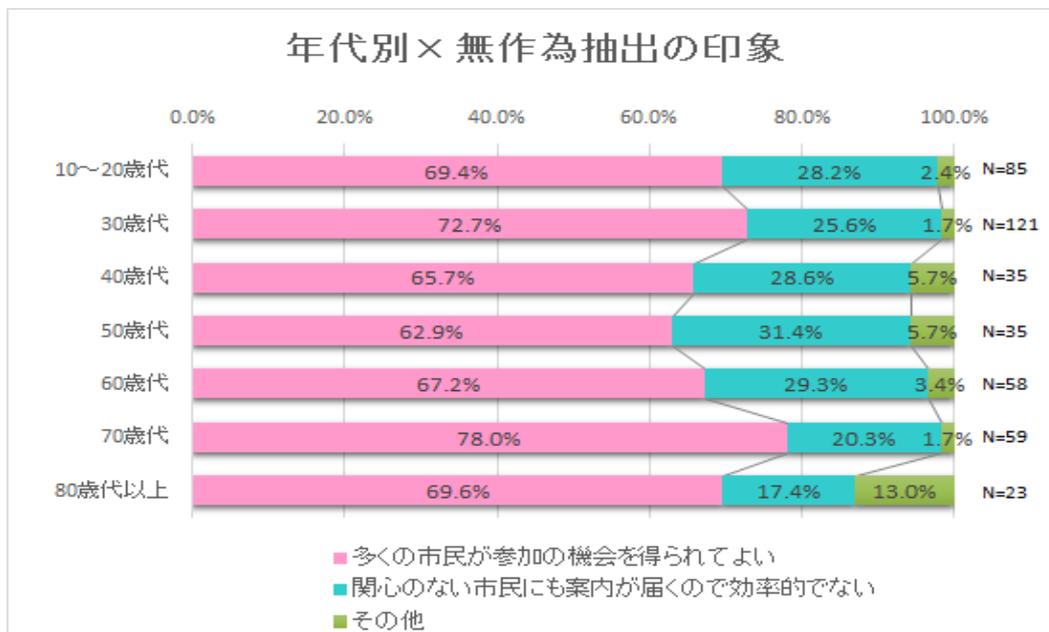
- どの年代も参加案内を受け取って「面白そうだった」と感じたようです。
- 一方で、40歳代、50歳代では「興味がなかった」が上回っています。



② 年代別×無作為抽出印象

参加依頼を無作為で抽出した印象を、年代別に集計しました。

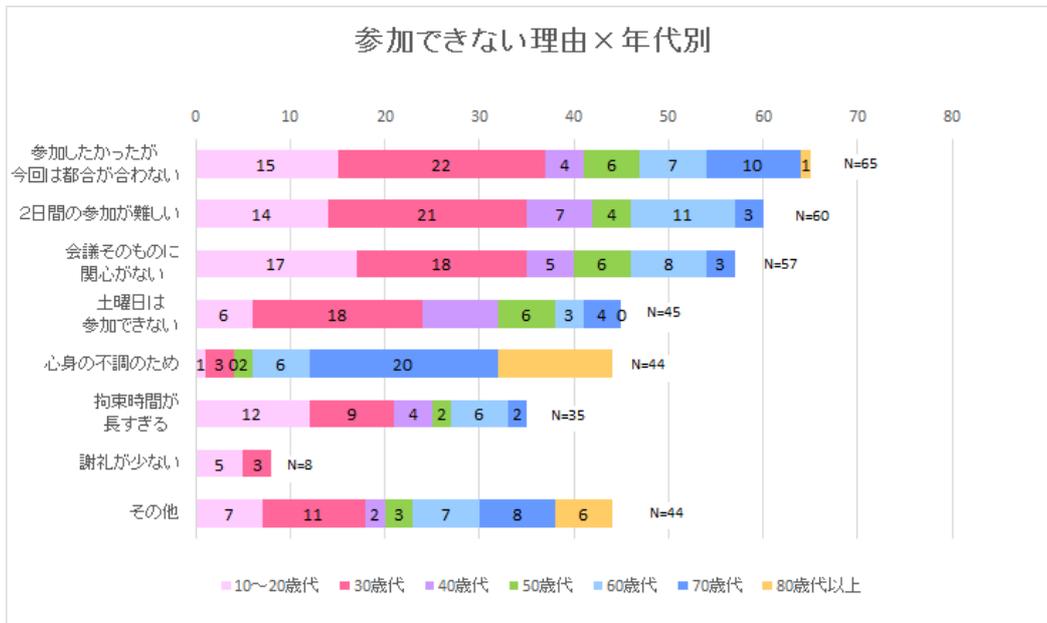
- どの年代も「多くの市民が参加の機会を得られてよい」と感じたようです。
- 一方で、「関心のない市民にも案内が届くので効率的でない」は30%前後が多くなっています。



### ③ 年代別×参加できない理由

参加できない理由を年代別に集計しました。

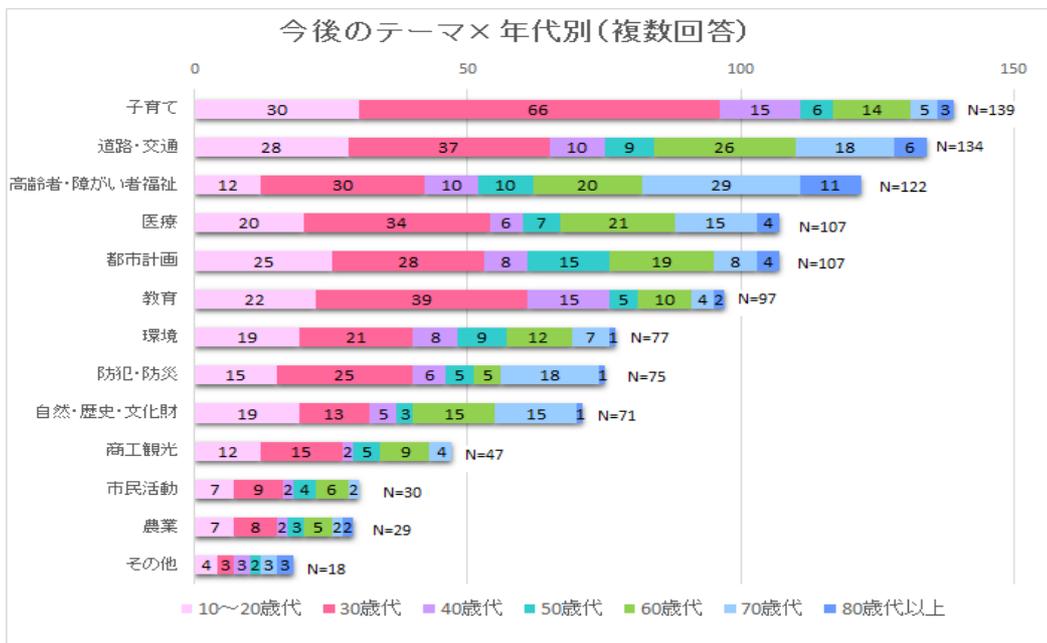
- 参加できない理由は、「都合が合わない」「2日間の参加が難しい」が多く、複数日の参加がネックであるという理由が多くありました。
- 年齢層が高くなるにつれて「心身の不調のため」の理由が多くありました。



### ④ 年代別×城陽未来まちづくり会議で扱ってほしいテーマ

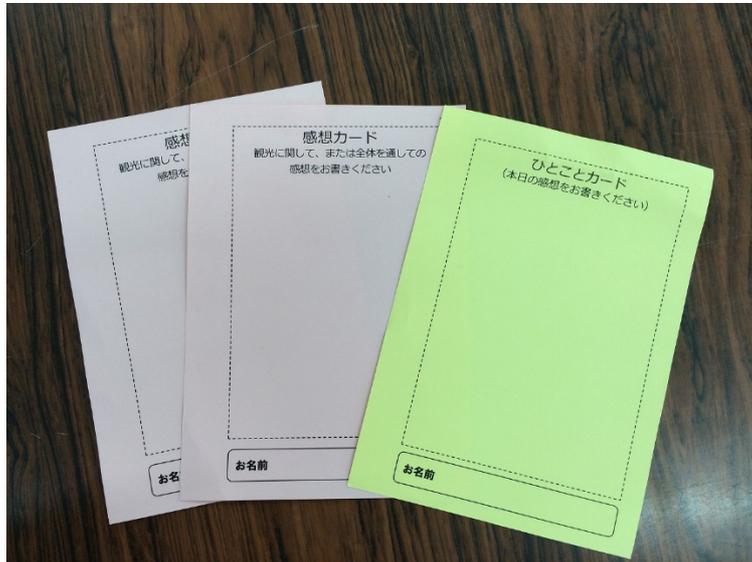
今後、城陽未来まちづくり会議で検討したいテーマを年代別に集計しました。

- 今後、扱ってほしいテーマとしては、子育てが多くなっているものの、道路・交通や福祉関係など、日々の生活に密着したテーマについて票が集まりました。



## 資料4 会議参加者のアンケート調査

城陽未来まちづくり会議の当日、ひとことカード（1日目）と感想カード（2日目）を配布し、自由意見を書いていたいただきましたので、意見の内容を紹介します。



### ① 今後の観光まちづくりに向けた提案

- ・小さな子ども達が安心して遊べる所があれば良い。
- ・高齢者がイベントのお手伝いができるとういのではないかな。
- ・人が多く集まると治安が悪くなるので、防犯面の検討も必要である。
- ・青谷の梅まつりは、会場がもう少しゆったりとして落ち着ける場所であれば、もっと楽しいイベントになると思う。
- ・IT等を利用したPRを充実すれば観光客の増加につながると思う。
- ・これからの10年で城陽は大きく変わるので、名神が開通しても城陽市を通過させないような事を考える必要がある。
- ・字体やデザインを統一し、PRの充実が必要である。
- ・安心して歩ける歩道が整備されると良い。
- ・財政面の問題を解決しないと、何をするにも前に進めない。
- ・まずは工業団地を整備して企業誘致を図り、法人税収入の比率を増やすこと。そして市民税を安くすれば人口は増加し人の往来も増える。
- ・素敵な駅前だと下車した気になるので、駅前整備は必要である。
- ・駅前に「道の駅」をつくり、特産品を購入してもらうのはどうか。
- ・大学との連携は、費用をあまりかけずに地域の創生につながるのでは、是非検討していただきたい。
- ・観光案内の作成やホームページの開設等の王道のやり方では、中途半端な城陽をアピールすることは難しい。暴走するゆるキャラや自虐的なネーミング（キーワード）を用い、変化球で勝負するのはどうか。

## ② 会議の運営に関して

### 〈会議の継続について〉

- ・55人委員会に参加できてよかった。多くの方が真剣に城陽市の事を考えていることが実感できた。ただ、限られた時間で討議するには大きすぎる問題なので、今後も月1回程度の継続会議をお願いしたい。
- ・観光は何年も先の話であり大きなテーマなので、定期的に話し合う場や、いろいろな意見を出し合う場は大切だと思う。
- ・今回のような市民会議が今後も必要であり継続すべき。
- ・いろんな意見がまだ出せたので、このような会議を再度開催してほしい。
- ・継続が必要、今回のメンバーでも良いが新たなメンバーを加えて議論がほしい。小中高生を参加させるのもよい。
- ・自分の住んでいる市について考える機会があつて非常に良いと思いました。定期的にこういう機会があると良いと思う。

### 〈行政の運営体制について〉

- ・班ごとの発表は素晴らしいが、市側の提案や市としての意見が無い。(市民の意見を吸い上げるのが今回の目的なのかもしれませんが) 何のために市長が現場まで来ているのか。
- ・市の職員も参加し、市の現状や可能な情報がもう少しほしいと感じた。
- ・観光協会の方々の参加、傍聴があつたほうがよいと思う。
- ・市役所職員が市民としてテーブルに参加したほうがよいと思う。
- ・何故もっと城陽市が主体となって会議を運営しないのか。
- ・会議の時間の短さは、実行していこうという気があるのかと思わざるを得ない。

### 〈会議の進め方について〉

- ・城陽市で既に実施している構想については、事前に紹介しておくべきだったと思う。せっかくの市民が集まって検討する場なので、同じ考えを出すのはもったいない。
- ・観光協会は何を目指しているのか知りたかった。また市はどの程度の税金を出せるのかも知りたかった。
- ・時間が少なく感じるので、2回目に挑むまでに各自の意見をまとめる依頼をして持ち寄って、話しを始める等の方がよかった。
- ・会議の資料について、計画の行程、財源、評価方法等、もう少し充実すべきだと思う。(インターネットで公表しているなら、それも知らせる)
- ・観光ありきなのか、まちづくりなのか会議の主旨を明確にして進めてほしい。
- ・事前資料は内容が充実しているのに、グループワークの議題はそのデータを受けたものではない。またテーマがざっくりで検討しにくかった。「城陽市はこうしたいと思っているけどこの点について皆さんはどう思いますか」という具体的な提案にしてほしい。
- ・テーマが漠然としているので、考えるポイントをどこに置いていいのかわからなかった。
- ・観光を重視したい理由が経済効果への期待であれば、どのくらいの経費が掛かっているのかを知りたい。
- ・参加者に若い人がもう少し増え、若い意見が出るようにお願いしたい。
- ・市政に近いことや改善を考えてきたので、この程度で良いのかと心配になった。
- ・発表時間やワークショップの時間が短すぎて議論がまとまらない。

### ③ 市政に関して

#### 〈政策への反映について〉

- ・観光には、道路、鉄道、駐車場などのアクセスが大切であり、観光に関する議論をする前に昨年行われた市民会議の公共交通の基本計画を説明すべきである。そうでなければ市民会議間の連携がない。
- ・検討した内容がどのように市政に反映されていくのか知りたい。
- ・市民として出来ることを真剣に考え、城陽を自分たちの町を大切にしたいと提案したものであるので、提案通り市政に反映させてほしい。
- ・各班の意見がどこまで実現するのか分かりませんが、市民が色々考えたものなので、積極的に取り入れてほしいし、形が残る物にしてほしい。
- ・城陽市の良い面・悪い面が出たので、この意見は受け止めて頂きたい。

#### 〈観光政策そのものについて〉

- ・基本的な前提として、城陽市で観光をうたっていくのか、いけるのか。
- ・城陽市に観光はそれほど重要でないのではないか。
- ・大都市や観光地の狭間で他の生き方があるのではないか。
- ・農産物が主体となるが、この程度の産物で将来も人を引きつける魅力があるのかが懸念される。
- ・城陽市のまちづくりの方向性が見えない中で観光についての議論だが、実現されていくのか疑わしく思う。
- ・多数の市民の意見を聞いたところ思いは同じであるため、この結果を生かして、よりよい城陽を創るのかにかかっている。

#### 〈今後への期待〉

- ・個人的には高速道路はいらないと思っているが、せっきやく出来るので最大限に活かせる施策を期待する。
- ・地方都市としての新たな価値観の第一歩を踏み出すことを期待する。

#### ④ 全体的な感想

- ・市民の意見を聞き入れて発展して行ってほしい。
- ・この会議が城陽市の明るい未来に活かされることを願う。
- ・班によって考えた方が全く異なり、同じ方向であってもアプローチの仕方が異なっており、いろいろな考え方に触れることができたので良かった。
- ・情報発信が重要であることを改めて感じた。
- ・この会議に参加して、城陽市に対する愛着が想像以上に強かったことに感銘を受けた。
- ・こんなにまじめに城陽のことを考えている人がたくさんいるとは思っておらず、ホッとしました。参加して勉強になり良かったと思う。
- ・自分の住んでいる町について知る事は、非常に重要であると感じた。
- ・一日半の時間的に無理な面が多々あったが、それなりに貴重な意見が出たので有意義な会議だったと思う。

#### 〈新たな気づきについて〉

- ・観光について興味はありませんでしたが、地元の事で知らない事がたくさんあった。会議で城陽市の事を知り、参加できるイベントに参加したいと思った。城陽市の観光では、梅ぐらいしかないと考えていたが、人が集まる場所がたくさんあることが理解できた。
- ・1回目、2回目の会議を通して城陽市について知ることが多かったこと、また、城陽市の観光について考えていく中で、今後どのような市になってほしいか等、自分の思いを見直す機会を作れたということが、参加したことで得られた大きな2つのことだと感じた。
- ・まちづくり会議に参加して、地元「城陽市」を見る目が変わった。私たちの意見が少しでも反映されると嬉しく思う。若い人たちの参加もあり色々な人の意見も聞けて大変勉強になった。
- ・「城陽市の観光」は現状から考えても難しい問題がたくさんあったが、逆に新たな発見もあり良い経験となった。
- ・あらゆる視点から考えることで、何も無いと思っていた城陽市にもまだまだ頑張れる余地があるのだということを知った。
- ・城陽市の名産物は市民歴20年の私も知らないものがあり、城陽を知るきっかけとなった。
- ・城陽市は京都市の衛星都市としての性格が強く、大きなセールスポイントが存在しないことから、議論があまり進まないとの思いがあったが、実際には町おこしや新たな可能性が見いだせ、非常に面白味のある会議だった。
- ・市民が城陽市のことを知らないという事が分かった。観光以前に市民が城陽のことを知ることから始めるのも大切だと思う。

### 〈会議の意義について〉

- ・今回の会議に参加して、素晴らしい提案が次々に出ることに感銘すると共に、地元の人々の生の意見を聞けたことに、この会議の意味の深さを感じた。
- ・グループワークを通じて、手ごたえのある具体的戦略を立てられたことに、この会議の意義を感じた。
- ・時間が足りないことで意見が出しきれなかったように思うが、城陽の未来のために真剣に考える人が多数集まって意見を出し合えたことに大きな意義があると思う。

### 〈自分なりのアクションについて〉

- ・思っていたより若い人も多く、各個人の考えを聞くことができ有意義だった。今後も城陽市が盛り上がることを言ってほしい。自分自身も城陽市の為にできることをやろうと思う。
- ・城陽市を発展させようと考えておられる市民の方々が大変多いので関心致しました。私自身城陽のことをあまり知らずにいたことを反省しております。今後、城陽市の発展のために何かの役に立ちたいと思う。
- ・城陽に今まで住んできて、良い点や悪い点が理解できて良かった。城陽を観光地として、発展させるためには、自分が城陽の観光を知らないと、他の人に説明が出来ないので、様々なイベントに参加し体験してみたいと思う。

〈京都新聞 平成 27 年 (2015) 8 月 30 日〉

2015年(平成27年)8月30日 日曜日 地域 22

# 山城

## 城陽の観光 市民が議論

### まちづくり会議 「エコ先進都市に」意見も

「城陽市の観光をテーマに意見を出し合う参加者たち(城陽市寺田・文化バルク城陽)」

市民の声を市政運営に反映させる「城陽未来まちづくり会議」が29日、城陽市寺田の文化バルク城陽で開かれた。2回目の今年は市の観光をテーマに、参加者たちが活発に意見を話し合った。

市民対話を重視しようと市が昨年からはじめた。無作為抽出した市民の中から参加に承諾した55人を選び、この日は学生や主婦、会社員など10〜80代の48人が参加。議論の場を増やすため、前回より1日増やし2日間の日程で行うことにした。

参加したNPOスタッフ山本駿さん(24)は「グループで話し合い、観光の枠組みを広

「エコ先進都市」に至った。議論して新と話していた。『目指す』という提案 たな視点を得られた」 (三鼓慎太郎)

# 城陽市 55人委員会スタート



グループごとに意見を出して提案をまとめる参加者

## 「市民もPRできるほど知らない」

### 無作為抽出の市民 「観光」テーマに議論

住民の市政への参加促進や、対話によるまちづくりにつなげようと、市民が施策について意見を交わす「城陽未来まちづくり会議」（通称、55人委員会）が29日、文化パルク城陽で開かれた。昨年に続く2度目の開催で、今年は「城陽市の観光」をテーマとした。日ごろ市政に関わる機会が少ない20〜30歳の若い参加者も多く、市民目線の本音が反映されたユニークな意見や厳しい指摘が次々に飛び出した。

## 厳しい意見、続々と

対話による市政運営を掲げる奥田敏晴市長の公約に基づき、昨年9月に初開催された。参加者や市議会から「議論する時間が短い」といった意見を受け、日程を2日間に広げた。無作為抽出した1800人の市民のうち、参加に承諾のあった人をさらに抽選して55人の委員を選んだ。初日の会議には、男性31人、女性17人の計48人が出席した。世代別では、30代が最も多く9人、そのほか▽10代1人

▽20代8人▽40代と50代がそれぞれ5人ずつ▽60代が8人▽70代8人▽80代9人となった。前回に比べ、若い世代の参加が大幅に増えたことが特徴となった。

改善したいマイナスイメージを挙げて意見を交わした。その後、出された意見を踏まえてグループごとに提案をまとめ、意見を発表した。多くのグループが、自然環境や低年齢層の子どもが遊ぶ施設が多いといった面を評価した。一方で、交通環境、特に鉄道の利便性や駅周辺の整備が不十分なこと

を指摘する意見が目立った。また、市民が市内の観光資源を「知らない」「行ったことがない」とする意見が多くあった。参加者からは「市民の多くが自分たちのまわりのことを外にアピールできるほど、城陽市のことを知らない」といった意見があった。入り込み客だけでなく、市民向けにも分かりやすいPRをすることや、地域愛を育むような教育を求める声があった。また、市外へのアピールが不十分で、ホームページの観光コンテンツが見にくく、イメージが弱いといった指摘や、イベント内容が毎年同じで、リピーターを意識した内容になっていないといった厳しい意見もあった。中には、「そもそも、城陽市が観光を売り出す必要があるのか」といった観点から意見を発表するグループもあった。京

が周辺にある中で、「わざわざ文化財などを訪ねるために訪れる人はごく少数で、現実的ではない。既存の観光よりも『エコの先進都市』といったような、新たな魅力を作って市をアピールしてはどうか」といった意見があった。新名神高速道の開通を見越し、車で京都や宇治に観光で訪れる人が、城陽で公共交通機関に乗り換える「パークアンドライド」の拠点としては、いろいろなの意見も聞かされた。生まれ育った地元に関心を持てる

「小日向」

【小日向】

市民「55 人委員会」2 年目…

# 観光体験型農園で活路を

## 新名神 開通で パーク&ライド拠点に

城陽市

まもなく 1 期目の任期折り返し点を迎える奥田敏晴  
城陽市長の公約の柱「対話でつくるまちづくり」の目玉事  
業「城陽未来まちづくり会議(通称・55 人委員会)が 29 日、文  
化パルク城陽で開かれた。2 年目のテーマは「城陽市の観  
光」議論を深化させるべく、今回から 2 日間開催とし、各  
グループから出た意見のうち「優先すべき取り組み」の絞  
り込みまで行う。

これまで市政に届  
きにくかった市民の  
声を吸い上げて施策に  
反映したいとの奥田  
市長の強い思いから実  
現した。五里五里の里  
にちなんだ 55 人委員  
会。

このうち、初日の会  
議に出席したのは 48 人  
(男性 31 人、女性 17  
人)。各年代の内訳は▽  
10 代 11 人▽20 代 18  
人▽30 代 19 人▽40 代  
11 人▽50 代 15 人▽  
60 代 8 人▽70 代 8  
人▽80 代 4 人と、

昨年より 20、30 代の若  
年層が多く参加。斬新  
な観光振興策、未来の  
まちづくり提案に期待  
が集まるメンバー構成  
となった。

開会挨拶に立った奥  
田市長も、本市の主役  
は市民の皆さん。会議  
でいただいた意見は、  
未来志向の夢と希望  
にあふれる施策につな  
げていくと、市民目線

での市政運営を強調し  
た。

その後、7 グループ  
に分かれて市民らが自  
己紹介。会議は委託業  
者コンサルのフナシ  
リ(進行役)が取り  
仕切り、午前中は現  
況編、午後からは提  
案編としてグループ  
ごとに、プラス(青色)・  
マイナス(赤色)の意見  
を書いた付箋を横造紙  
に貼り付け、議論を深  
めていった。

全国的に有名な観  
光資源がないまっただけ  
にグループの中には  
「逆にこれを強みに京  
都や奈良、宇治の観光  
場所がない。私たちが  
『食いだおれロード』と

陽をアピールしたらど  
うか」との意見も。また  
「徹底的にエコなまじに  
こだわら、トイレの水  
の雨水利用、エコカーを  
促進。光のページェント  
も太陽光発電を利用し  
て行うようにすればど  
うか」と、新しい観光モ  
デル都市に歩み出すこ  
とを推奨するグループ  
もあった。

そのほか、京都、奈良  
の 2 つの古都を結ぶ J  
R、近鉄の 2 線が通り、  
その中間点というメ  
リットを生かして、新名  
神を利用して車で来る  
観光客に、ここで車を  
止めて、鉄道に乗り換  
えてもらうパーク&ラ  
イドの拠点にこの提  
案もあった。

若年層からは、文パ  
ル、鴻ノ巣山など家族  
連れで憩える所はある  
が、中高生が遊べる  
場所がない。私たちが  
の現状課題も  
寄せられた。

「道が狭い」  
「駅前整備が遅  
れている」案内  
看板が少ない」  
など、市外から  
観光客を受け  
入れるにあつ  
ての問題定義は  
もちろんあった  
がそれ以上に  
「PR 不足」「イ  
メージアップ戦  
略が必要」と、  
広報面の強化を望む声  
が際立って多く、リビ  
エーターを呼び込むには  
「毎年、同じイベントを  
繰り返すのではなく、  
ウズモイ、チジク、イ  
モノの収穫など、体験型

の現実味のある意見も  
寄せられた。

参加した市民の一人、  
松本英四郎さん(73)は  
「奈島は、私たちが市民  
がもっともって城陽の  
ことを知り、郷土愛を  
育てる教育を進めるこ  
とが将来の観光振興に  
もつながるのではない  
でしょうか。きょうは  
様々な年代の方の意見  
が聞けて有意義でし  
た」と感想を述べてい  
た。



活発にグループ討議を展開する市民ら

なお、次回は 9 月 26  
日(土)午前中と同じく  
文パルクで開催。参加市  
民には、市から一人 30  
00 円の謝礼金が支給  
される。

# 観光テーマ 多面的な提案相次ぐ

## 城陽市 未来まちづくり会議

### 市民参加の議論 終える

市民参加や対話による意見を市政運営に生かそうと開かれた「城陽未来まちづくり会議」(55人委員会)の今年度2回目の会議が26日、文化パルク城陽であった。先月行われた初回の意見をもとに、「城陽市の観光」をテーマにした提案をまとめ発表し合った。観光PRの見直しや充実、周辺地域や大学との連携といった「市民目線」からの意見が次々と出されていた。

対話重視の市政運営 市が昨年初めに、市民のうち、参加を要する奥田敬晴 開催した。無作為に抽出した1800人の委員「観光」をテーマに、抽出して55人の委員



参加者前にまとめた意見を発表するグループの代表者

昨年より1日増やした。世代別で30代の2日間の日程で市民9人が最も多く、若い世代の参加を増や

した。先月の1回目に続き、奥田敬晴市長が「本市の主役は市民のみさんです。会議で深く議論したい貴重な意見は、市として取り組むべきものについては未来志向の夢と希望にあふれる施策につなげていきたい」とあいさつした。

この日は45人が出席。7つのグループごとに、前回会議で出された意見や他のグループの意見を参考にして提案をまとめた。

各グループごとの発表では、「観光の課題は周辺の自治体も同じ課題を抱えているはず。連携した取り組みやPRに力を入れてはどうか」とか、特産の梅を使い、大学と共同研究で商品開発をしてはどうかといった意見があった。

現状の情報発信やPRが不十分だといった課題を指摘する意見もあり、トップセールスの強化のほか、観光などさまざまな情報発信の拠点を文化パルクといった施設に集約してはどうか、といった意見も出されていた。

会場の傍聴席には、奥田市長や一部の市議会議員の姿もあり、市民の視点から出される意見に耳を傾けた。また、「エロ」をテーマに、サイクルイベントやレンタサイクルを活用するなどした健康づくりなど「地域総合型環境文化都市構想」といった発表をするグループもあった。

現状の情報発信やPRが不十分だといった課題を指摘する意見もあり、トップセールスの強化のほか、観光などさまざまな情報発信の拠点を文化パルクといった施設に集約してはどうか、といった意見も出されていた。

報告交換をする場を継続的に開いてほしい」と話していた。市は会議で出された意見を11月ごろをめどに報告書にまとめ、また、本年度から3年間で進められている市の次期観光振興計画の策定作業の参考として役立てていくとしている。【小日向一】

観光「55人委員会」まとめ  
振興

# 光のページェント「夏にも」

## まちの中心に巨大オブジェ!

城陽市

1期目任期の折り返し点を迎えた奥田敏晴城陽市長の公約の柱「対話でつくるまちづくり」の目玉事業・城陽未来まちづくり会議「通称・55人委員会」は26日、文化パルク城陽で2日目の議論を行い、参加市民45人が7つのグループに分かれ、我がまちの観光振興策をまとめ上げた。

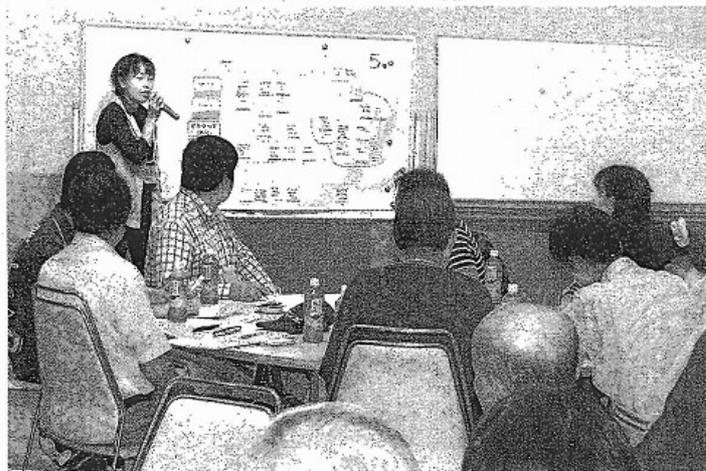
『宇治・平等院』のように全国的に有名な観光資源がない城陽市だが、かつては京都、奈良の2大古都の中間点、五里五里の里と親しまれ、特に長池は江戸期の宿場まちとして栄えた歴史がある。ちょうど2年前の市政刷新で誕生した奥田市長は「これまで市政に届きにくかった市民の声を吸い上げ、施策に反映したい」と、五里五里にちなんだ55人委

員会を昨年度から開催。今年度は「議論する時間が短かった」という反省点に立ち、2日間開催に充実させ、18歳以上の市民から無作為抽出し、参加を了承した市民から年代・地域のバランスを考慮して55人を選定した。

先月29日の1日目は各グループから「環境配慮型に特化したまちづくり」「ウメ、イチジク、寺田いもなど特産品を生かした体験型

農園・加工品で活路を」といった意見が出た。2日目はさらに、これら市民目線の発想を掘り下げ、より具体的な提案に発展させていった。冒頭、奥田市長から「本市の主役は市民の皆さん。貴重な意見を未来志向の夢と希望あふれる施策につなげていって、策定中の新観光振興計画に反映させることが伝えられた。」

「市の真ん中に大きな



グループ討論の成果を発表する参加市民

オブジェを設置し、写真スポットとして城陽にしかないものを「過性の補助金に頼らず、大学と協働してウメの商品開発を」などと積極提案。この日の会議は午前中で終了し、進行役を務めたコンサル担当者からは「住所を交換したり、フェイスブックでつながるなど皆さんの知恵、パワーを、まちづくり団体として発展させてみて面白いのでは」とのまとめも行われた。市企画管理部では、今回の議論内容を報告書にまとめ、11月中にも公表する。



城陽未来まちづくり会議（55人委員会）  
報 告 書

平成27年12月

編集・発行 城陽市 企画管理部 秘書広報課  
〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16・17番地  
TEL 0774-52-1111（代表）  
FAX 0774-56-3999